

全船協

会報 150 号 2022年8月 夏季号



新造 RORO 船「しゅり」瀬野汽船株式会社 提供



一般社団法人 **全日本船舶職員協会**

JAPAN MARITIME OFFICERS' ASSOCIATION

無料船員職業紹介所(国土交通省許可第8号)

URL <https://www.zensenkyo.com>

山友汽船株式会社

代表取締役社長 望月正信
〒650-0015 神戸市中央区多聞通2丁目1番1号
TEL (078) 371-5505 FAX (078) 371-5520
Email: into@sanyukisen.co.jp

B&S ENTERPRISE

株式会社ビーアンドエス・エンタープライズ
TEL (078) 361-6971 FAX (078) 361-6972
Email: info@bands-k.com



北星海運株式会社

代表取締役社長 加藤由起夫
〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号
セントラルビル6階
電話 (03) 3275-5520(代) FAX (03) 3275-5575

一般社団法人 日本船長協会

会長 中村 紳也
〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地
(海事センタービル5階)
電話 (03) 3265-6641
FAX (03) 3265-8710
<http://www.captain.or.jp>

一般社団法人 海洋会

会長 平塚 惣一
〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地
(海事センタービル6階)
電話 (03) 3262-8632
FAX (03) 3262-6909



一般社団法人 日本船舶機関士協会

会長 掛谷 茂
〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目5番地
(海事センタービル5階)
電話 (03) 3264-2518
E-mail: me-honbu@marine-engineer.or.jp
URL <http://www.marine-engineer.or.jp>

人と海に未来を

公益社団法人 日本海難防止協会

会長 内藤 忠顕
〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町33-8
元代々木サンサンビル3F
電話 (03) 5761-6050 / E-mail: 2231jams@nikkaibo.or.jp
<https://www.nikkaibo.or.jp>

日本海事新聞

THE JAPAN MARITIME DAILY

試読・購読のお申し込みは
電話 **03-3436-3223** まで
<https://www.jmd.co.jp/>

海上の友

船員と船員家庭のタブロイド版新聞 毎月1日発行
年間購読料 本体価格(5,916円) + 税 送料別

お申し込み
お問い合わせ (公財)日本海事広報協会

〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6
電話 (03) 3552-5034 FAX (03) 3553-6580

- ・海技教育支援 ・奨学金
- ・帆船「海王丸」体験航海・海洋教室 等

公益財団法人 海技教育財団

会長 池田 潤一郎
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4
電話 (03) 3288-0991 <https://www.macf.jp>

ラッシング・チョッキング資材の総合サービス

株式会社 ウシオ

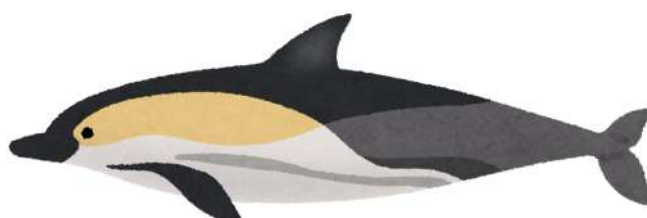
100th
ANNIVERSARY
since 1920

代表取締役社長 牛尾 雅英

〒652-0813 兵庫県神戸市兵庫区兵庫町2丁目3番27号
電話 (078) 652-2065 / FAX (078) 652-2070
<http://ushio-kk.co.jp>
東京/横浜/常陸那珂/名古屋/大阪/和歌山/加古川/門司/福岡/香港

目次

表紙・・・しゅり(RORO船) 瀬野汽船株式会社	
巻頭言(ご挨拶).....代表理事・会長 広重康成	・・・2
2022年度総会議事録事務局 ・・・3
2022年度第1回臨時理事会事務局 ・・・24
B号航海記(第5回)内海水先区水先人会水先人 会員 栗阪肇 ・・・25
新・大島丸 ブロック検査報告大島商船高等専門学校 商船学科長 千葉元 ・・・30
新・大島丸 ブロック検査報告及び建造状況報告
.....大島商船高等専門学校技術支援センター 本庄孝光	・・・32
姫路海洋少年団活動報告姫路少年団指導員 瀧本義夫 ・・・34
北から南から	
富山高等専門学校36
鳥羽商船高等専門学校41
広島商船高等専門学校45
大島商船高等専門学校47
弓削商船高等専門学校51
海技教育機構55
本部・支部だより事務局 ・・・57
賛助会員名簿事務局 ・・・58
会費納入者名簿・2022年度新卒者入会名簿事務局 ・・・59
時事寸評・表紙写真解説・編集後記事務局 ・・・60



○ 巻頭言 ○ ご 挨拶

代表理事・会長 広 重 康 成



令和4年6月11日に開催された総会に続く第1回臨時理事会に於きまして前任の酒迎会長より、全日本船舶職員協会の代表理事・会長職をお引き受けしま

した広重康成と申します。

大島商船高専航海科3期生、昭和49年卒業です。よろしくお願ひ申し上げます。

全船協の理事として1期2年を経験しましたが、我が国の船乗り事情がここまでひどいとは、正直ショックを受けています。

地球は一握りの権力者や経済的に優位に立つ者の私物ではありません。今日産まれたばかりの赤ちゃんも80代前後の年配の方も、全く同じ「今」という時間帯を生きる地球人という名前の同窓生であり同期生であることは間違いありません。

地球は誕生して既に46億年の歳月を経過しています。その地球に人類として産まれた私たちはたかだか5万年程度の歴史しか持たない新参者です。その新参者は70年～80年という瞬間の命を頂き、生活の場を地球にお借りしている居候でしかありません。居候ですからお借りした部屋を今までよりももっと綺麗にして、快適な状態に改善して、また次に来られる人に譲り渡すのが当然のマナーでしょう。

とりわけ私たち船乗りは地球の7割を占める海を生活の場と決め5.5年の専門教育を受けて海洋立国日本のために働くことを誇りとして育ちました。

前任の酒迎会長は5校商船高専の200名定員維持を堅持されました。もし、全船協が沈黙していたら120名になっていたはずです。6割しか海上職、若しくは海運関連に就職していない。だったら6割の学生数に縮小したらいいという発想には苦笑を禁じ得ませんでした。

また、海技教育機構の大型練習船実習では2年次に1ヵ月、4年次に5ヶ月、6年次に6ヵ月の合計12ヵ月の乗船実習がありますが、何と食料金の名目で学生一人当たり月3万5千円を徴収する案が水面下で画策されていました。総合計42万円です。これに待ったをかけたのは酒迎前会長です。

そして今年10月13日には代替新造練習船大島丸が三菱造船下関工場に進水します。次は弓削丸、鳥羽丸、富山の若潮丸と続き5船目には大島丸が誕生します。

思い返せば2019年11月6日、自由民主党本部901号大会議室に於いて「商船高専5新造練習船建造期成決起集会」に参加した5校商船高専の同窓会長、各地元の町長、学校長、同窓生の熱意が船齢30年超を迎える5校の練習船全ての代替新造につながり、遂に第1船目が誕生するに至る事実に対し、身が震えるような感動を覚えています。何としても大島丸までの5隻が無事誕生することを全船協は全力で支持して参ります。海洋立国日本を支えるのは若い後輩の皆さんたちです。外航、内航を問わず優秀な日本人船員が育つこと。これからは日本人船員が我が国の基幹を支える人的財産となることを信じ、期待し、全船協は総力を挙げてバックアップし続けます。

我が国の海運と母なる海を守ることを使命として全船協は活動します。さらなるご協力をお願い申し上げます。

2022年度通常総会議事録

1. 開催日時 2022年6月11日(土) 14時00分～15時00分
2. 開催場所 東京都千代田区一ツ橋二丁目6-2
一般財団法人 日本教育会館(一ツ橋ホール) 会議室701号
3. 出席者
総正会員数の議決権の数 1,214名
定足数 608名
出席正会員数 498名(本人出席12名、委任状出席488名)
議決権のある出席正会員総数 640名(書面表決142名を含む)
実出席理事 8名
実出席監事 1名
理事・監事以外の実出席者 3名

実出席者氏名

- ① 出席理事 酒迎和成、飯島寿、菅沼延之、田島孝一、広重康成、松見準、望月正信、師富潤、
- ① 出席監事 加藤信一
- ② 正会員出席者
徳嶋明宏、文谷嘉宏、水野博之、

4. 議長の選出及び議事録署名人の選任、定足数の報告

定刻14時司会者に任じられた飯島専務理事が開会を宣し、本年度もコロナウイルス感染防止のため、通知表は委任状若しくは書面表決にて送付願っており、事前了承を依頼した。

続いて定款第17条に基づく議長の選出を諮ったところ、正会員水野博之氏より挙手があり、出席者の賛成多数により承認され、水野博之氏が議長に就任した。

水野博之氏が議長席に着き挨拶の後、議長が議事録署名人を選任したい旨を述べたところ立候補者がなく、議長より署名人候補として、飯島寿氏、加藤信一氏の2名が推薦され、選任された。

書記には田島孝一氏を任命した。その後、田島書記から本日の通常総会は定款第18条の定足数608名を満たしている旨の報告がなされ、議長は本総会が成立した旨を宣した。

5. 物故者への黙祷

飯島専務理事より昨年度10名の物故者の報告があり、出席者全員で黙祷を捧げた。

6. 議事に先立ち、酒迎会長から、この一年間の活動を振り返り、5商船系高専の校内練習船代替建造の第1船にあたる新・大島丸の起工式が3月に行われたことなどが報告され、今後も全船協として各方面への働きかけを行っていくとして会員各位の支援をお願いする旨の挨拶がなされた。また現在全船協が置かれている厳しい状況とそれを乗り越える策を本総会に付議しているため、ご審議を賜りたい旨挨拶があった。その後、議案審議に入った。

第1号議案 2021年度事業報告書(案)について

第2号議案 2021年度決算(案)について

議長は、標記の議題について、事務局に一括して説明することを求め、飯島専務理事から(2021年4月1日から2022年3月31日まで)における事業報告・決算について次の書類をもって説明・報告がなされた。

- ① 貸借対照表
- ② 正味財産増減計算書
- ③ 事業別正味財産増減(税込・累計)
- ④ 収支計算書
- ⑤ 財産目録
- ⑥ 財務諸表に対する注記

次いで加藤信一監事から、当該期における監査報告書が読み上げられ、当該書類が適法に処理され、且つ適法に記載され、又理事の業務執行に関し不正行為または法令および定款に違反する事実がない旨報告がなされた。

監査意見として「5 商船系高専の校内練習船の代替新造計画の支援を行い、第1船となる新・大島丸起工式が3月1日に執り行われ、次の新：弓削丸も予算化されるなど、今後も継続的に支援をお願いしたい。」と特記された。

その後、議長が賛否を議場に諮り、満場一致で承認可決した。

第3号議案 役員の選任及び解任について

議長は、標記の議題について、事務局に説明を求めた。

飯島専務理事から、現役員は本総会をもって任期満了に伴い解任されるので本総会の決議により選任することが説明された。本議案の役員候補者は、2021年度役員候補者選考委員会にて決定し2021年度第3回理事会へ報告された。理事候補者区分富山 長谷川徹、玉川宏、区分鳥羽 菅沼延之、加藤信一、区分広島 望月正信、師富潤、区分大島 酒迎和成、広重康成、区分弓削 柏木実、渡部英利、区分各校 松見準、田島孝一、監事候補者区分大島 徳嶋明宏、区分広島 文谷嘉宏が決定しています。

この結果を踏まえ、定款第19条には理事監事選任議案の決議では候補者ごとに決議すべしとあるが、総会開催前に過半数の賛成をそれぞれ得られている場合、異議がなければ一括で選任することも許容され得るので、一括で選任するよう提案があり、一括して理事12名、監事2名を選任したい、と議長より提案したところ賛成多数により第3号議案は可決し、新役員が選任された。

7. 報告事項

飯島専務理事から3月17日開催されたみなし理事会の決定事項について、次の報告があった。

2022年度事業計画(案)及び2022年度予算(案)

議長はこれについて質疑及び意見等を求めたが、特に質疑及び意見等の無いことを確認した。

以上をもって議案を終了し、望月副会長より「全船協としてこれからも船員教育支援についての問題には取り組んでいきたいので、会員の皆様のご理解とご協力をお願いします。」と閉会の挨拶が行われた後、議長は閉会を宣言し、16時00分散会した。

上記の議事の経過及びその結果を明確にするため、この議事録を作成し、定款第22条議事録の定めに従い、議長、出席正会員2名及び代表理事がこれに記名押印する。

2022年6月11日

議長 水野博之 印

議事録署名人
(代表理事) 酒迎和成 印

議事録署名人
(正会員) 飯島寿 印

議事録署名人
(正会員) 加藤信一 印



2021年度においても依然として新型コロナウイルス感染が収束せず、著しく活動を制限された一年間であったが、感染防止対策を講じて活動を行った。

1 公益目的継続事業

(1) 海事に関する調査研究（継続事業一）

ア HTW (Human element, Training and Watch keeping : 人的因子訓練当直)

IMO 人的因子訓練当直小委員会 第8回会合 (HTW8) は2022年2月7日から2月11日まで、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、Web開催となった。概要は以下の通り。

HTW に関する PPR8、MSC103、MEPC76、C125、および MSC104 の審議結果を参照するもの。

- ・「船員への COVID-19 ワクチン接種を優先するための行動勧告に関する決議(MSC.490(103))」を採択したこと。
- ・「COVID-19 感染拡大における主管庁、旗国および寄港国が発行する船員の証明及び訓練に関するガイダンス(MSC.1/Circ.1643)」を承認したこと。
- ・「COVID-19 感染拡大下における船員の課題に対処するための包括的な行動」に関する総会決議案を承認したこと。
- ・C125 に対して、可及的速やかに、現行の戦略的計画に「人的因子」の戦略的方向性を追加することを要請することに合意したこと。
- ・船員問題及び人的因子の特定及び対処に関する ILO/IMO 合同作業部会創設を原則承認することを決定したこと。
- ・「北極海の船舶による燃料としての重油(HFO)の使用及び使用のリスクを低減するための緩和策に関するガイドライン案」にあるセクション7（精通訓練、訓練及び操練）に関するアドバイスの要請。

イ MSC (Maritime Safety Committee : 海上安全委員会)

IMO 海上安全委員会 第104回会合 (MSC104) は2021年10月4日から10月8日まで、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、Web開催となった。審議結果は以下の通り。

2021年5月に開催された MSC103 において、2018年から進められていた自動運航船が既存規制体系に及ぼす影響を分析するための論点整理作業が完了した。その際、今後の自動運航船に関する検討にあたっては、しっかりとした作業計画・タイムライン等の策定が必要であるとされ、基準作成に向けた作業計画策定、自動運航システムの適用等に関するガイドライン策定等が優先検討事項として特定されたところ。

MSC104 において、MSC103 の結果を踏まえて、新規作業計画として、我が国等から上記文書が提出され、MSC104 は以下の事項を合意し、2022年4月20日～29日に開催予定の MSC105 から検討を開始することとなった。

○議長に対し、MSC105 での詳細な検討のため、今次会合で提出された文書、コメントおよび RSE 結果を考慮して、他の IMO 機関との作業調整と同様に、事務局、文書提案者（MSC104 の提案国）および MASS 作業部会議長と協議して、作業範囲、作業手順、タイムラインを含むロードマップを作成するよう要請すること。

○2025 年完了を目標に、「Development of a goal-based instrument for maritime autonomous surface ships(MASS)」に関する新規作業計画を、委員会の 2022-2023 年の 2 カ年議題および MSC105 の暫定議題に含めること。

○新規作業計画の初期段階は、次期段階を共通に理解するためのロードマップの完成であること。また、時間が許せば、委員会は、MSC105 で準備ができていない提案について、着手することができること。

○最終目標は、MASS 運航に対処するための義務的規則の準備であること。

○上述のロードマップの最終化も含めた新規作業計画に関する作業を行うため、MSC105 において WG を再構築すること。

ウ 海事人材育成－「商船系大学における海事人材育成に関する懇談会」についての報告

この懇談会が開催されるに至る経緯は、内閣府の「総合海洋政策本部参与会議 PT」における提案によって立ち上げられ、2021 年度に合計 4 回 Web 会議で開催され希望者は傍聴できる会議で全船協も傍聴した。なお、第 3 回懇談会と第 4 回懇談会の間に作業部会が 4 回開催されたが、非公開であった。

「令和 4 年 1 月 19 日付、同懇談会意見まとめ」の内容を全船協の視点で抜粋・要約して下記の通り、報告します。

まずは、1. はじめにと題して以下の通り。(原文ママ)

○本懇談会は、海事クラスターが求める人材の育成に向けて、総合海洋政策本部参与会議海洋産業の競争力強化に関する PT での議論を踏まえ、商船系大学における海事人材の在り方について検討を行った。

○検討過程においては、独立行政法人海技教育機構（JMETS）が実施する乗船実習教育等について、時代の変化に即した質の高い効率的な運営体制の構築に向け、産官学が現状と課題について共通認識を図った。

○特に、船員養成の観点では、JMETS の乗船実習における多科配乗の緩和・解消に向けて産官学が必要な取組を進めることの必要性が確認され、懇談会の下で開催した作業部会での検討も参考に、懇談会において以下のとおり方向性を取りまとめる。

次に 2. 効率的・効果的な乗船実習教育等に向けた方向性として、(要約)

(a) 速やかに取り組むべき方向性

- ・ 現行制度の範囲内で可能な乗船実習の配乗時期の見直しを段階的に進めることで合意。
- ・ 東京海洋大学においては、2024 年度入学者から、また神戸大学においては 2023 年度か

ら運用開始を検討する。

(b) この他、引き続き検討されることが望まれるもの

- ・商船系大学の所管である文部科学省、船員養成制度及び JMETS の所管である国土交通省の積極的な協力のほか、産業界等からの協力などにも期待したい。
- ・学部在学中の乗船実習時期の見直しに伴い、低学年次の学生に対して JMETS あるいは産業界等の協力による特別講義や施設見学等の実施を検討すること。

そして3. おわりに、として以下の通り。(原文ママ)

○本懇談会では、我が国の船員養成を担う JMETS および商船系大学が現状と課題について認識し、まずは JMETS の乗船実習における多科配乗の緩和・解消に向けて議論を行い、上記2. の方向性について共通認識を図ったところであるが、具体的な取組に向けて関係機関間での協議が継続されることが必要である。

○また、本懇談会の目的でもある海事クラスターが求める人材の育成に関しては十分な意見交換を行うことができなかったが、脱炭素化、デジタルイゼーションなど海事クラスターを取り巻く環境も大きく変化しており、商船系大学における人材育成の更なる高度化が求められている。

○我が国は四方を海に囲まれた海洋国家であり、海事クラスターの持続的な成長が不可欠である。産業界等と一体となって商船系大学の教育研究活動が発展することを期待したい。

なお、懇談会意見とりまとめのための第4回懇談会は2022年1月17日に開催されたが、その議事録の一部を紹介します。非常に興味深いものがあります。

- ・(大学委員発言)「本懇談会は当初、商船系大学における12か月の乗船実習を大学教育から切り離すことや、外航船の実習を1隻にまとめることといった提言があった。この提言の背景には、JMETSにおける多科配乗の問題が、JMETSの教育水準保持において非常に大きな負担となっており、これを解消したいという目的があった」

<結果は現教育制度で対応することで落ち着いた>

- ・(オブザーバー発言)「大学委員発言の通り、2020年12月に日本船主協会として業界からの提言を行った。現状の多科配乗問題の解消に向け、大学4年間の中で実施されている6ヶ月の乗船実習を卒業後に外出しし、JMETSへの集約を提言した。また今後の検証であるが、現在、大手3社において約70名の海技者を採用している。2006年度に始まった新3級の卒業生の方が両旧商船系大学からの総数より多くなっている。今回の見直しにより、これまでの採用の傾向や質の底上げなどが今後どのように変化していくのか、その辺りの数字を見て行く必要もあると考えている」(以上、全て議事録より抜粋)

◎全船協は2020年12月、教育制度改革の対象は商船系高専および商船系大学との情報を得て、直ちに商船系高専の教育制度現状維持を国会議員および文科省担当課へ陳情した。現在の商船系高専の教育体制は、長年の英知を結集した結果であるので、是非とも現状維持するように懇請した。結果として、商船系高専は総合海洋政策本部参与会議の検討の対象から除外され

たことを敢えて記します。今後も積極的に文科省高等教育局専門教育課から、情報入手に努める必要があると考えている。

[参照] 文科省 HP 政策・審議会 > 審議会情報 審議会一覧 調査研究協力者会議等（高等教育）分科会・部会等 商船系大学における海事人材育成に関する懇談会

（2）船員・商船教育支援（継続事業一2）

ア 5 商船系高専の校内練習船の代替新造計画の支援活動について

今年度においても新型コロナウイルス感染対策を行い、代替新造計画の実施について関係省庁および国会議員の先生方に陳情を行った。

2021 年度補正予算において、文科省の災害支援機能を有する高等専門学校練習船整備事業として、「大島丸」の 2 年目および「弓削丸」の 1 年目の建造予算が確定した。（建造予算は 2 年分割となる）第 1 船となった新・大島丸は、2022 年 3 月 1 日、三菱重工・下関造船所江浦工場において起工式が厳かに行われた。起工式には大島商船高専関係者、商船系高専 5 校校長全員および全船協からは会長が参列した。本年 10 月中旬には進水式、2023 年 3 月下旬に竣工・引渡しの予定である。（第 2 船となる新・弓削丸は、2022 年度の補正予算（弓削丸の 2 年目）が決定されれば、2023 年 3 月には起工式を迎えることができる）

イ 5 商船系高専校長懇談会の開催について

○2021 年 5 月 12 日に Web 会議で開催した。年度末の 3 月 8 日に開催したばかりであったが、5 校のうち 3 校の校長が交代されたので、現状問題把握のため、開催となった。

① 大島商船高専の新・大島丸の建造の進捗状況について、2021 年 7 月造船所決定、2023 年 3 月竣工引渡しとの説明があった。全船協の支援活動について謝辞があった。

② 昨年度の船員養成の改革に関する検討会について、5 商船系高専の改革案が議論されたこともあったが、当面静観することで 5 校校長会は一致している。本協会は 5 校現状維持で関係者をお願いしていることを確認した。

③ 全船協より、新入生の準会員入会について御礼を申し上げ、9 月卒業生の入会についてお願いをした

○2022 年 2 月 28 日下関市民会館会議室において、5 校校長会が開催されたので、特別に参加を申し出て、時間を頂いて全船協校長懇談会の場を設けた。（本来は 1 月 24 日に東京にて開催の予定であったが、新型コロナウイルス感染防止の観点から延期となっていた）

校長会では、商船学科への募集問題及び TOEIC 点数向上についての意見交換があった。

全船協からは、4 月新入生の準会員入会のお願い、および 2021 年度の 5 校への寄附金は 3 月理事会の承認を得て、予定通り実行することを伝えた。校長会からは全船協に対して、5 校練習船の代替建造は過去において、実現不可能であったが、今般実現できたことへの謝辞があった。

ウ 商船学科振興協議会（5 校商船学科長）の開催について

○2021 年 5 月 17 日 Web 会議で開催した。新型コロナウイルス感染防止の観点から年度末の

3月9日 Web 会議で開催したばかりであったが、4校の商船学科長が交代されたので、校長懇談会と同様に現状問題把握のため、急遽 Web 会議となった。議題に関しては校長懇談会と略同じ内容であったが、寄附金の具体的な使用状況や今後の使用計画について、意見交換を行った。全船協からは、準会員入会の御礼と9月卒業生の入会に関する支援をお願いした。

- エ 独立行政法人国立高専機構主催の次世代の海洋人材育成に関する協議会（Web 会議）に委員として参画した。冒頭の理事長挨拶において、5校練習船の代替建造が実現したことについて、関係者への謝辞があった。5校の担当校から「国立高専における次世代の海洋人材の育成に関する取組」と題して、①海事・海洋分野の人材育成事業の実施 ②海事・海洋の魅力を伝える広報活動の実施についての説明があった。やはり、出口と連携したキャリア教育実践および商船学科入学に向けての活動が非常に重要であることを再確認した。
- オ 次世代の海洋人材の育成に関する事業－海事キャリア教育セミナーについて、次世代の海洋人材の育成プロジェクトの一環として大島商船高等専門学校で開催された「海事キャリア教育セミナー」に講師を派遣した。
- カ 商船系高専評議委員会（富山高専及び大島商船高専）に理事が参画した。
- キ 5 商船系高専商船学科卒業式はコロナ禍のため、本協会会長祝辞および優秀学生の表彰状と記念品を郵送した。
- ク 独立行政法人海技教育機構所属の練習船に「全船協文庫」として20万円を寄贈した。
- ケ 日本海洋少年団との連携について、海洋少年団本部および海事局の要請により、今年度も引き続き、全船協の会員を姫路海洋少年団の指導員として派遣した。

(3) 図書発行／講演会／会誌発行

ア 会報の発行

会報146号、147号、148号を正会員、賛助会員、5校商船学科生5年生全員と商船学科関係職員・5校準会員および海事関係団体等に発送した。

イ ホームページ

全船協の対外的な活動や来訪者を逐一掲載し、積極的な発信を行うとともに、求人情報を掲載する等、無料船員職業紹介所の機能としても活用した。

(4) 無料船員職業紹介事業

	航海士	機関士	合計
求人	内航5 外航	内航7 外航2	14
求職	内航1 外航	内航 外航	1
成立	1	1	2

2 収益事業(施設管理事業)

(1) 全船協所有の千代田三信ビル8階を東芳紙業株式会社と建物賃貸借契約締結、また全船協所有の神戸三宮ベンチャービル426号を商船三井近海株式会社（2021年4月1日より商船三井

ドライバルク株式会社に社名変更)と建物賃貸借契約を締結し、収益事業として安定収入を得ている。

3 正会員、準会員及び賛助会員の獲得と会の活性化

(1) 正会員と準会員の入会

ア 2021年9月卒の5校商船学科卒業生の入会は135名(前年比+44名)であった。近年の入会減少対策として機会有るごとに5校商船学科長に積極的な入会促進を依頼したことおよび各校同窓会の協力の結果である。

イ 昨年に引き続き4月の新入生に有料の準会員の入会を促進し、5校合計で156名の入会があった。2021年度の5校校長懇談会において、各校長の支援を受け新入生の勧誘を行った。

(2) 賛助会員の入会

ア 会長、副会長、専務理事および理事が、外航海運、内航海運、海運関連、港湾運送、船舶管理等々の企業及び全国の水先人会を訪問し積極的に勧誘した結果、新規7社、現在44社となった。なお、水先人会の加入は今年度も実現しなかった。

会員数は下表の通りである。

推移	会員 内 訳	正 会 員				賛助会員		準会員
		本年度		前年度		個人	団体	本年度
2021年3月31日		1089		1011		1	44	154
入会者	入会	140		101		0	0	156
	再入会		140	2	103			
退会者	会費未納資格喪失者			5				
	退会者	8	8	18	23		4	2
物故者		7	7	2	2			
2022年3月31日		1214		1089		4	40	308

(3) 協会の活性化

ア ホームページに本部の活動状況を逐一掲載して、積極的に発信することに努めた。

イ 2021年の横浜港カッターレース大会は新型コロナウイルス感染防止のため中止となったが、2022年の実施に向けて実行委員会副委員長に就任した。

ウ 委員会活動

① 企画財政委員会、年2回の委員会(リモート開催)を開催し、予算の執行および事業計画について検討した。

② 広報HP委員会、会報発行の校正・編纂作業を行った。

4 管理部門の活動

(1) 執行役員会を月例開催し、協会の運営についての透明性および意思疎通を図った。

(2) 業務執行役員全員は無報酬とするとともに事務所経費の削減に努めた。

- (3) 資産の運用に関しては運用先から適宜情報を入手し保全に努めた。
- (4) 通常総会 2021年度通常総会は新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し開催した。
- (5) 理事会 2021年度第1回から第3回までの理事会を開催した。ただし、第1回～第3回理事会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から電磁的記録による「みなし理事会」とした。臨時理事会「みなし理事会」を2回開催した。
- (6) 監査 会計・業務監査を実施した。

5 海事団体への参画

(1) 役員・委員に就任している関連団体

- ア (公財) 日本殉職船員顕彰会 理事・監事・催事委員・実行委員
- イ (公社) 日本海難防止協会 理事
- ウ (公財) 海技教育財団 理事・評議員、奨学生選考委員会委員
- エ (一財) 海技振興センター HTW 調査検討に関する専門委員会委員
- オ (公社) 日本海洋少年団連盟 役員選考委員会委員
- カ (公財) 帆船日本丸記念財団 評議員
- キ (一社) 横浜港振興協会・カッターレース実行委員会 副委員長

以上

株式会社 コトラシステム

代表取締役 望月正信

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-12-13
日本橋鮎佐ビル3階

電話 (03) 3245-6975

FAX (03) 3245-6980

E-mail: cotrasystem@nifty.com

第2号議案

貸借対照表			
2022年 3月31日現在			
一般社団法人 全日本船舶職員協会 法人【新基準】			(単位：円)
科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	12,170,534	9,112,888	3,057,646
前払金	317,487	306,717	10,770
流動資産合計	12,488,021	9,419,605	3,068,416
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	100,165,040	3,165,040	97,000,000
基本財産郵便貯金	3,066,159	3,066,159	0
投資有価証券	120,692,800	217,692,800	△ 97,000,000
基本財産合計	223,923,999	223,923,999	0
(2) 特定資産			
修繕積立預金	1,428,697	1,428,697	0
特定資産合計	1,428,697	1,428,697	0
(3) その他固定資産			
収益事業準備基金	16,232,778	16,232,778	0
建物	31,515,084	32,502,558	△ 987,474
ソフトウェア	1,368,514	235,143	1,133,371
什器備品	82,948	95,547	△ 12,599
土地	61,976,936	61,976,936	0
保証金	544,500	544,500	0
その他固定資産合計	111,720,760	111,587,462	133,298
固定資産合計	337,073,456	336,940,158	133,298
資産合計	349,561,477	346,359,763	3,201,714
II 負債の部			
1. 流動負債			
前受金	741,879	1,004,104	△ 262,225
前受会費	250,000	759,600	△ 509,600
預り金	0	31,960	△ 31,960
未払法人税等	1,077,500	921,900	155,600
流動負債合計	2,069,379	2,717,564	△ 648,185
2. 固定負債			
受入保証金	6,594,000	6,594,000	0
固定負債合計	6,594,000	6,594,000	0
負債合計	8,663,379	9,311,564	△ 648,185
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	233,870,000	233,870,000	0
(うち基本財産への充当額)	223,923,999	223,923,999	0
2. 一般正味財産	107,028,098	103,178,199	3,849,899
(うち特定資産への充当額)	1,428,697	1,428,697	0
正味財産合計	340,898,098	337,048,199	3,849,899
負債及び正味財産合計	349,561,477	346,359,763	3,201,714
zensen05 ZENSEN05-PC		2022年 4月20日 09:30:16	

事業別正味財産増減計算書

令和03年4月1日から令和04年3月31日まで

一般社団法人 全日本船舶職員協会
法人【新基準】

科目	法人会計	海事調査 事業	商船教育	会誌発行	就職紹介	公益事業 計	業務委託 事業	施設管理 事業	総合計
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
基本財産運用益	8,760,386	0	0	0	0	0	0	0	8,760,386
基本財産受配当	8,760,386	0	0	0	0	0	0	0	8,760,386
特定資産運用益	31	0	0	0	0	0	0	0	31
特定資産受利息	31	0	0	0	0	0	0	0	31
受取入会金	144,000	0	0	0	0	0	0	0	144,000
受取入会金	144,000	0	0	0	0	0	0	0	144,000
受取会費	9,823,000	0	0	0	0	0	0	0	9,823,000
正会員受取会費	4,792,000	0	0	0	0	0	0	0	4,792,000
賛助会員受取会費	2,300,000	0	0	0	0	0	0	0	2,300,000
終身会費	1,171,000	0	0	0	0	0	0	0	1,171,000
準会員会費	1,560,000	0	0	0	0	0	0	0	1,560,000
事業収益	0	0	0	544,000	0	544,000	0	8,724,773	9,268,773
会報広告収入	0	0	0	544,000	0	544,000	0	0	544,000
施設管理収益	0	0	0	0	0	0	0	8,724,773	8,724,773
受取寄付金	30,000	0	0	0	0	0	0	0	30,000
受取寄付金	30,000	0	0	0	0	0	0	0	30,000
雑収益	266,305	0	0	0	0	0	0	0	266,305
受取利息	266,305	0	0	0	0	0	0	0	266,305
経常収益計	19,023,722	0	0	544,000	0	544,000	0	8,724,773	28,292,495
(2) 経常費用									
事業費	0	1,987,428	7,208,970	3,897,471	1,547,405	14,641,274	0	3,708,734	18,350,008
給料手当	0	215,000	326,250	351,250	187,500	1,080,000	0	0	1,080,000
福利厚生費	0	21,958	29,434	31,114	20,110	102,616	0	0	102,616
旅費交通費	0	184,352	529,930	333,399	160,775	1,208,456	0	0	1,208,456
通信運搬費	0	81,292	109,590	869,984	81,412	1,142,278	0	0	1,142,278
減価償却費	0	76,587	76,587	76,587	76,587	306,348	0	987,474	1,293,822
建物減価償却	0	0	0	0	0	0	0	987,474	987,474
什器備品減価償却	0	2,519	2,519	2,519	2,519	10,076	0	0	10,076
ソフトウェア減価償却	0	74,068	74,068	74,068	74,068	296,272	0	0	296,272
印刷製本費	0	13,527	97,412	819,177	13,527	943,643	0	0	943,643
機器賃借料	0	180,360	180,360	180,360	180,360	721,440	0	0	721,440
新聞図書費	0	239,208	7,263	0	0	246,471	0	0	246,471
光熱水料費	0	25,740	25,740	25,740	25,740	102,960	0	0	102,960
賃借料	0	373,564	373,564	373,564	373,564	1,494,256	0	0	1,494,256
保険料	0	3,348	3,348	3,348	3,348	13,392	0	0	13,392
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	837,500	837,500
共益費	0	0	0	0	0	0	0	1,883,760	1,883,760
支払負担金	0	130,000	100,000	0	0	230,000	0	0	230,000
寄付金	0	0	4,450,000	0	0	4,450,000	0	0	4,450,000
支払広告費	0	0	111,400	57,200	38,500	207,100	0	0	207,100
委託費	0	441,808	670,417	735,064	385,298	2,232,587	0	0	2,232,587
雑費	0	684	117,675	40,684	684	159,727	0	0	159,727
管理費	3,503,758	0	0	0	0	0	0	0	3,503,758
給料手当	170,000	0	0	0	0	0	0	0	170,000
福利厚生費	18,936	0	0	0	0	0	0	0	18,936
会議費	49,660	0	0	0	0	0	0	0	49,660
旅費交通費	197,376	0	0	0	0	0	0	0	197,376
通信運搬費	424,846	0	0	0	0	0	0	0	424,846
減価償却費	112,880	0	0	0	0	0	0	0	112,880
什器備品減価償却	2,523	0	0	0	0	0	0	0	2,523
ソフトウェア減価償却	110,357	0	0	0	0	0	0	0	110,357
消耗品費	27,130	0	0	0	0	0	0	0	27,130
印刷製本費	59,971	0	0	0	0	0	0	0	59,971
機器賃借料	158,874	0	0	0	0	0	0	0	158,874
光熱水料費	25,740	0	0	0	0	0	0	0	25,740
賃借料	462,649	0	0	0	0	0	0	0	462,649
保険料	11,919	0	0	0	0	0	0	0	11,919
租税公課	13,750	0	0	0	0	0	0	0	13,750
支払負担金	70,000	0	0	0	0	0	0	0	70,000
委託費	1,179,663	0	0	0	0	0	0	0	1,179,663
機器保守料	57,420	0	0	0	0	0	0	0	57,420
雑費	462,944	0	0	0	0	0	0	0	462,944
経常費用計	3,503,758	1,987,428	7,208,970	3,897,471	1,547,405	14,641,274	0	3,708,734	21,853,766
評価損益等調整前当期経常増減額	15,519,964	-1,987,428	-7,208,970	-3,353,471	-1,547,405	-14,097,274	0	5,016,039	6,438,729
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	15,519,964	-1,987,428	-7,208,970	-3,353,471	-1,547,405	-14,097,274	0	5,016,039	6,438,729
2. 経常外増減の部									
(1) 経常外収益									
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用									
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	15,519,964	-1,987,428	-7,208,970	-3,353,471	-1,547,405	-14,097,274	0	5,016,039	6,438,729
法人住民税事業	1,511,330	0	0	0	0	0	0	1,077,500	2,588,830
当期一般正味財産増減額	14,008,634	-1,987,428	-7,208,970	-3,353,471	-1,547,405	-14,097,274	0	3,938,539	3,849,899
一般正味財産期首残高	199,174,676	-17,806,298	-42,161,708	-27,966,989	-12,851,029	-100,786,024	339,637	7,034,317	103,178,199
一般正味財産期末残高	213,183,310	-19,793,726	-49,370,678	-31,320,460	-14,398,434	-114,883,298	339,637	10,972,856	107,028,098
II									

収支計算書

2021年 4月 1日から2022年 3月31日まで

一般社団法人 全日本船舶職員協会
法人【新基準】

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
基本財産運用収入	6,337,000	8,760,386	△ 2,423,386
基本財産配当金収入	6,337,000	8,760,386	△ 2,423,386
特定資産運用収入	1,000	31	969
特定資産利息収入	1,000	31	969
入会金収入	91,000	144,000	△ 53,000
入会金収入	91,000	144,000	△ 53,000
会費収入	9,923,000	9,823,000	100,000
正会員会費収入	5,239,000	4,792,000	447,000
賛助会員会費収入	2,650,000	2,300,000	350,000
終身会員会費	494,000	1,171,000	△ 677,000
準会員会費	1,540,000	1,560,000	△ 20,000
事業収入	8,452,918	9,268,773	△ 815,855
広告収入	700,000	544,000	156,000
施設管理費収入	7,752,918	8,724,773	△ 971,855
寄付金収入	0	30,000	△ 30,000
寄付金収入	0	30,000	△ 30,000
雑収入	247,000	266,305	△ 19,305
受取利息収入	247,000	266,305	△ 19,305
事業活動収入計	25,051,918	28,292,495	△ 3,240,577
2. 事業活動支出			
事業費支出	17,445,153	17,056,186	388,967
給料手当支出	0	1,080,000	△ 1,080,000
福利厚生費支出	60,480	102,616	△ 42,136
会議費支出	300,000	0	300,000
旅費交通費支出	2,271,777	1,208,456	1,063,321
通信運搬費支出	937,000	1,142,278	△ 205,278
印刷製本費支出	610,000	943,643	△ 333,643
機器賃借料支出	887,000	721,440	165,560
新聞図書費	330,000	246,471	83,529
光熱水料費支出	128,880	102,960	25,920
賃借料支出	1,485,456	1,494,256	△ 8,800
共益費支出	1,883,760	1,883,760	0
保険料支出	98,000	13,392	84,608
租税公課支出	753,000	837,500	△ 84,500
負担金支出	0	230,000	△ 230,000
寄付金	4,400,000	4,450,000	△ 50,000
支払広告費	149,000	207,100	△ 58,100
委託費支出	2,980,800	2,232,587	748,213
雑支出	170,000	159,727	10,273
管理費支出	4,389,516	3,390,878	998,638
給料手当支出	306,000	170,000	136,000
福利厚生費支出	90,000	18,936	71,064
会議費支出	87,000	49,660	37,340
旅費交通費支出	509,408	197,376	312,032
通信運搬費支出	422,000	424,846	△ 2,846
消耗品費支出	88,000	27,130	60,870
印刷製本費支出	554,000	59,971	494,029
機器賃借料支出	222,000	158,874	63,126
光熱水料費支出	27,720	25,740	1,980
賃借料支出	371,388	462,649	△ 91,261
保険料支出	13,000	11,919	1,081
租税公課支出	356,000	13,750	342,250
負担金支出	221,000	70,000	151,000
委託費支出	528,000	1,179,663	△ 651,663
機器保守料支出	57,000	57,420	△ 420
雑支出	537,000	462,944	74,056
事業活動支出計	21,834,669	20,447,064	1,387,605
小計	3,217,249	7,845,431	△ 4,628,182
法人税等の支払額	1,124,415	△ 2,588,830	3,713,245
事業活動収支差額	2,092,834	5,256,601	△ 3,163,767

科 目	予算額	決算額	差 異
Ⅱ 投資活動収支の部			0
1. 投資活動収入			0
基本財産取崩収入	0	97,000,000	△ 97,000,000
投資有価証券売却収入	0	97,000,000	△ 97,000,000
特定資産取崩収入	0	27	△ 27
修繕積立資産取崩収入	0	27	△ 27
固定資産売却収入	0	20	△ 20
収益事業準備基金取崩収入	0	20	△ 20
投資活動収入計	0	97,000,047	△ 97,000,047
2. 投資活動支出			0
基本財産取得支出	0	50,000,000	△ 50,000,000
定期預金支出	0	50,000,000	△ 50,000,000
特定資産取得支出	0	47,000,027	△ 47,000,027
積立預金支出	0	47,000,027	△ 47,000,027
固定資産取得支出	0	1,540,020	△ 1,540,020
収益事業準備基金取得支出	0	20	△ 20
ソフトウェア購入支出	0	1,540,000	△ 1,540,000
投資活動支出計	0	98,540,047	△ 98,540,047
投資活動収支差額	0	△ 1,540,000	1,540,000
Ⅲ 財務活動収支の部			0
1. 財務活動収入			0
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			0
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
Ⅳ 予備費支出	0	-----	#VALUE!
当期収支差額	2,092,834	3,716,601	△ 1,623,767
前期繰越収支差額	5,952,000	6,702,041	△ 750,041
次期繰越収支差額	8,044,834	10,418,642	△ 2,373,808
zensen05 ZENSEN05-PC			2022年 4月20日 09:30:23
収支計算書に対する注記			
(単位：円)			
1. 資金の範囲	科 目	前期末残高	当期末残高
資金の範囲には、現金預金及び預り金を含めている。	現金預金	9,112,888	12,170,534
尚、前期末及び当期末残高は、右記に記載のとおりである			
2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳	合 計	9,112,888	12,170,534
	預り金	31,960	0
	合 計	31,960	0
	次期繰越収支差額	9,144,848	12,170,534

財産目録

2022年 3月31日現在

一般社団法人 全日本船舶職員協会 法人【新基準】				(単位：円)
貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)				
現金	手元保管	運転資金として	196,702	
預金	普通みずほ銀行麹町支店		4,028,013	
	普通みずほ銀行虎ノ門支店		5,595,365	
	普通三菱UFJ銀行麹町中央支店		1,383,897	
	普三井住友銀行神戸		69,910	
	三井住友飯田橋		1	
	三井住友飯田橋普通		1	
	郵便貯金本部		128,820	
	郵便振替貯金		767,826	
前払金			317,487	
流動資産合計			12,488,021	
(固定資産)				
基本財産				
定期預金			100,165,040	
基本財産定期預金(指定)			50,165,040	
三井住友飯田橋定期			50,000,000	
基本財産郵便貯金			3,066,159	
郵便定額預金			3,000,000	
郵便貯金			66,159	
投資有価証券			120,692,800	
投資有価証券(指定)			120,692,800	
特定資産				
修繕積立預金			1,428,697	
修繕積立預金			1,428,697	
その他固定資産				
収益事業準備基金			16,232,778	
城南信用金庫			2,244,947	
みずほ定期預金1			3,000,000	
みずほ定期預金2			3,000,000	
みずほ定期預金3			3,043,790	
国際金融公社TRY			4,944,041	
建物			31,515,084	
本部			29,147,279	
支部			2,367,805	
ソフトウェア			1,368,514	
什器備品			82,948	
土地			61,976,936	
本部			46,920,000	
支部			15,056,936	
保証金			544,500	
固定資産合計			337,073,456	
資産合計			349,561,477	
(流動負債)				
前受金			741,879	
前受会費			250,000	
未払法人税等			1,077,500	
流動負債合計			2,069,379	
(固定負債)				
受入保証金			6,594,000	
固定負債合計			6,594,000	
負債合計			8,663,379	
正味財産			340,898,098	

zensen05 ZENSEN05-PC

2022年 4月20日 09:30:25

財務諸表に対する注記

2022年3月31日現在

1. 重要な会計方針

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日 改正平成21年10月16日内閣府公益認定等委員会)を採用している。

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

1. 満期保有目的の有価証券 償却原価法(定額法)によっている。

2. 満期保有目的以外の有価証券
期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

建物……定額法によっている

什器備品……定額法によっている

(3) 引当金の計上基準

退職給付引当金……期末退職給与の要支給額に相当する額を計上している

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本財産定期預金	3,165,040	97,000,000		100,165,040
基本財産郵便貯金	3,066,159			3,066,159
基本財産定額貯金				0
投資有価証券	217,692,800		97,000,000	120,692,800
小 計	223,923,999	97,000,000	97,000,000	223,923,999
特定資産				
修繕積立預金	1,428,697			1,428,697
事業安定化基金	0			0
小 計	1,428,697	0	0	1,428,697
合 計	225,352,696	97,000,000	97,000,000	225,352,696

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
基本財産定期預金	100,165,040	100,165,040		
基本財産郵便貯金	3,066,159	3,066,159		
投資有価証券	120,692,800	120,692,800		
小 計	223,923,999	223,923,999	0	0
特定資産				
修繕積立預金	1,428,697		1,428,697	
事業安定化基金	0			
小 計	1,428,697	0	1,428,697	0
合 計	225,352,696	223,923,999	1,428,697	0

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	49,807,630	18,292,546	31,515,084
ソフトウェア	2,418,148	1,049,634	1,368,514
什器備品	429,450	346,502	82,948
合 計	52,655,228	19,688,682	32,966,546

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおり。

科 目	帳簿価額	時価	評価損益	参考評価情報
基本財産				%
三菱UFJ証券PRD債	100,000,000	90,155,000	-9,845,000	90.155%
日本生命劣後債USD	20,692,800	24,756,198	4,063,398	119.64%
合 計	120,692,800	114,911,198	-5,781,602	

2022年4月20日

一般社団法人 全日本船舶職員協会
会長 酒迎 和成 殿

監事 加藤 信一

監査報告書

私は、2022年4月20日に2021年4月1日から2022年3月31日までの2021年度における会計および業務並びに公益目的支出計画の実施状況について監査を行いました。

その結果について次の通り報告します。

1 監査方法の概要

1. 会計監査については、会計帳簿および関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類およびその附属書類の明細の正確性を検討しました。
2. 業務監査については、理事会およびその他の書面決議をメールにて業務の報告を受け、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討しました。
3. 公益目的支出計画実施報告書については、事業報告・計算書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて公益目的支出計画実施状況の妥当性を検討しました。

2 監査意見

1. 計算書類および附属明細書の内容は、事実であると認めます。
2. 事業報告およびその附属明細書の内容は、事実であることを認めます。
3. 理事の職務遂行に関する不正行為または法令および定款に違反する重大な事実はないものと認めます。
4. 公益目的支出計画実施報告書は、法令または定款に従い法人の公益支出計画の実施の状況を正しく示していると認めます。
5. 評価すべきは5商船系高専の校内練習船の代替新造計画の支援を行い、第1船となる『大島丸』起工式が2022年3月1日執り行われ次の計画『弓削丸』も予算化されたとのこと、今後も継続的に支援をお願いしたい。

2022年度理事立候補者（番号に○は推薦）

番号	区分	氏名	抱負又は推薦理由（概要）
1	富山	長谷川 徹	会社と学生の橋渡し
2	富山	玉川 宏	新しい時代の船舶職員の育成について、積極的に活動していきたい
3	鳥羽	菅沼 延之	全船協の理事として、海事教育が発展していく様、尽力します
4	鳥羽	加藤 信一	日本人船員の必要性を広めたい。練習船の連続建造推進に尽力したい
5	広島	望月 正信	商船教育の充実させるため全船協において活動を行う
⑥	広島	師富 潤	推薦：日本人船員の重要性を認識しており全船協の発展に尽力してもらえる人材
7	大島	酒迎 和成	全船協の組織の維持発展に努め、日本人海技士の育成のため、商船学科振興に全力を傾注します
8	大島	広重 康成	これからの日本海運を支える後輩たちのために尽力したい
9	弓削	柏木 実	学校練習船の建造、及び、商船高専の現行の教育制度の維持に尽力したい
10	弓削	渡部 英利	商船高専教育制度、現行維持に尽力したい
11	各校	松見 準	日本国で唯一の船舶職員のための公益団体を守っていききたい。商船高専の卒業生の就職先も内航が外航を上回り、深刻な日本人船員不足等の問題について協会としても真剣に議論されるべき状況と考えます。協会の歴史と定款を尊重しながら、現在の日本人船員の目線で問題解決をはかれる組織を目指したいと思います。
12	各校	田島 孝一	全船協のために尽力したい

2022年度監事立候補者

番号	区分	氏名	抱負又は推薦理由（概要）
1	大島	徳嶋 明宏	全船協運営に微力ながらお役に立てればと思います
②	広島	文谷 嘉宏	推薦：全船協の活動に協賛してもらえる

報告事項

2022年度 事業計画(案)

2022年度事業計画は、公的命題である年間14,510,900円を維持する公益目的支出計画事業を実行することが必要不可欠である。2022年度の事業活動収入概算は、①会費（正会員・準会員・賛助会員）収入、②施設管理（不動産賃貸）収入及び、③基本財産運用収入等の合計約2200万円である。従って、収支均衡を基本とし、公益目的支出計画事業（継続事業1～4）及びその他事業を下記の通り策定した。

尚、この事業計画に基づく2022年度予算案は別紙の通りである。

1 公益目的支出計画事業

(1) 海事に関する調査研究（継続事業－1）

- ア HTW（人的因子、訓練及び当直小委員会）調査検討に関する専門委員会へ参加して本協会の意見を述べると共に、情報を収集して必要事項を海事技術者に発信する。
- イ STCW条約等の教育訓練に係る提案に対して本協会の意見を述べると共に教育機関と共有の上、船員教育に役立てる。
- ウ 日本近海における海洋資源開発、具体的SOx削減対策及び二酸化炭素削減対策並びに省エネ取組等の情報収集を行うと共に、ホームページ等で海事技術者等一般社会へ発信する。

(2) 船員教育支援（継続事業－2）

- ア 5校商船系高専商船学科支援については、5校校長懇談会及び商船学科長を中心とした商船学科振興協議会を開催して具体的な支援事業を実施する。
具体的には、学生募集対策費用及び英会話教育対策費用（TOEIC受験等）の支援並びに5校漕艇大会の支援を実施する。
- イ 独立行政法人国立高等専門学校機構における「次世代の海洋人材育成に関する協議会」の委員として参画する。
- ウ 5校商船系高専が実施している次世代の海洋人材の育成に関する事業「海事・海洋分野の人材育成事業の実施」プロジェクトに運営委員として参画する。
- エ 海事・海洋人材によるキャリア教育「海事キャリア教育セミナー」に講師を派遣する。
- オ 商船系高専の運営評議委員会に委員として参画する。（富山高専、大島商船高専）
- カ 5校商船学科卒業式に参列し全船協会長の祝辞を述べる。（各校出身理事代読）
- キ 日本船主協会主催 5校商船学科への合同進学ガイダンスを後援する。（横浜及び神戸等にて開催）

- (3) 図書・会誌の発行及び講演等（継続事業－3）
 - ア 会報を年3回発行する。（新春号、春季号、夏季号）
 - イ 講演会または座談会を継続して実施する。
 - ウ 協会ホームページにて、会員及び海事技術者等一般社会へ海事に関する最新情報を提供する。
 - エ 5校への会報配付は商船学科の準会員、5年生及び関係教職員へ無償配布する。
 - オ 独立行政法人海技教育機構練習船の「全船協文庫」へ新刊を寄贈する。
- (4) 無料船員職業紹介事業（継続事業－4）
 - ホームページ及び会報にて最新の求人・求職状況を海事技術者に提供すると共に若年船舶職員の転職相談等に取り組む。

2 収益事業

- ア 2018年4月1日に開始した千代田三信ビル8階部分の賃貸事業を継続する。
- イ 2021年1月1日に開始した三宮ベンチャービル4階部分の賃貸事業を継続する。

3 会員の維持拡大と会の活性化

- (1) 会員の維持拡大
 - ア 商船学科新入生の準会員及び卒業生の正会員入会を促進する。
 - イ 未入会OBの入会を促進する。
 - ウ 企業・団体に賛助会員の入会を促進する。
- (2) 協会の活性化
 - ア 協会の活動をホームページに掲載し、本部から会員へ発信する。
 - イ 日本海洋少年団連盟の活動に参画し、本協会をアピールし、5校商船学科への入学を促進する。

4 海事団体への参画

- (1) 役員・委員に就任している関連団体

ア（公財）日本殉職船員顕彰会	理事・監事・催事委員・実行委員
イ（公社）日本海難防止協会	理事
ウ（公財）海技教育財団	理事・評議員・奨学生選考委員
エ（一財）海技振興センター	HTW 調査検討に関する専門委員会委員
オ（公社）日本海洋少年団連盟	役員選考委員会委員
カ（公財）帆船日本丸記念財団	評議員
キ（一社）横浜港振興協会・カッターレース実行委員会	副委員長

以上

2022年度予算(案)

一般社団法人 全日本船舶職員協会 法人【新基準】										税込 累計 単位：円
科目	法人会計	海事調査 事業	商船教育	会誌発行	就職紹介	継続事業計	業務委託 事業	施設管理 事業	その他 事業計	総合計
I 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
基本財産運用益	3,600,000	0	0	0	0	0	0	0	0	3,600,000
基本財産受利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本財産受配当	3,600,000	0	0	0	0	0	0	0	0	3,600,000
特定資産運用益	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000
特定資産受利息	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000
受取入会金	91,000	0	0	0	0	0	0	0	0	91,000
受取入会金	91,000	0	0	0	0	0	0	0	0	91,000
受取会費	9,923,000	0	0	0	0	0	0	0	0	9,923,000
正会員受取会費	5,239,000	0	0	0	0	0	0	0	0	5,239,000
賛助会員受取会費	2,650,000	0	0	0	0	0	0	0	0	2,650,000
終身会費	494,000	0	0	0	0	0	0	0	0	494,000
準会員会費	1,540,000	0	0	0	0	0	0	0	0	1,540,000
事業収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会報広告収入	0	0	0	700,000	0	700,000	0	8,000,000	8,000,000	8,700,000
施設管理収益	0	0	0	0	0	0	0	8,000,000	8,000,000	8,000,000
業務委託収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	247,000	0	0	0	0	0	0	0	0	247,000
雑収益	247,000	0	0	0	0	0	0	0	0	247,000
受取利息	247,000	0	0	0	0	0	0	0	0	247,000
経常収益計	13,862,000	0	0	700,000	0	700,000	0	8,000,000	8,000,000	22,562,000
(2) 経常費用										
事業費	0	2,373,378	6,415,751	3,846,704	1,872,559	14,508,393	0	3,672,760	3,672,760	18,181,153
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	12,040	18,270	19,670	10,500	60,480	0	0	0	60,480
会議費	0	75,000	75,000	75,000	75,000	300,000	0	0	0	300,000
旅費交通費	0	415,854	718,947	797,500	339,475	2,271,777	0	0	0	2,271,777
通信運搬費	0	106,000	160,000	565,000	106,000	937,000	0	0	0	937,000
減価償却費	0	130,000	130,000	130,000	126,000	516,000	0	920,000	920,000	1,436,000
建物減価償却	0	14,000	14,000	14,000	14,000	56,000	0	920,000	920,000	976,000
ソフトウェア減価償却	0	28,000	28,000	28,000	28,000	112,000	0	0	0	112,000
ソフトウェア減価償却	0	80,000	80,000	80,000	80,000	320,000	0	0	0	320,000
備品原価償却	0	8,000	8,000	8,000	4,000	28,000	0	0	0	28,000
印刷製本費	0	8,000	8,000	586,000	8,000	610,000	0	0	0	610,000
機器賃借料	0	222,000	222,000	232,000	211,000	887,000	0	0	0	887,000
新聞図書費	0	323,000	7,000	0	0	330,000	0	0	0	330,000
光熱水料費	0	27,720	27,720	27,720	27,720	110,880	0	18,000	18,000	128,880
賃借料	0	371,364	371,364	371,364	371,364	1,485,456	0	0	0	1,485,456
保険料	0	0	0	0	0	0	0	98,000	98,000	98,000
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	753,000	753,000	753,000
共益費	0	0	0	0	0	0	0	1,883,760	1,883,760	1,883,760
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支払助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
寄付金	0	0	3,400,000	0	0	3,400,000	0	0	0	3,400,000
支払広告費	0	42,000	48,000	26,000	33,000	149,000	0	0	0	149,000
委託費	0	593,400	900,450	969,450	517,500	2,980,800	0	0	0	2,980,800
雑費	0	47,000	329,000	47,000	47,000	470,000	0	0	0	470,000
管理費	4,245,516	0	0	0	0	0	0	0	0	4,245,516
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	90,000	0	0	0	0	0	0	0	90,000
会議費	0	87,000	0	0	0	0	0	0	0	87,000
旅費交通費	0	509,408	0	0	0	0	0	0	0	509,408
通信運搬費	0	422,000	0	0	0	0	0	0	0	422,000
減価償却費	0	162,000	0	0	0	0	0	0	0	162,000
建物減価償却	0	14,000	0	0	0	0	0	0	0	14,000
ソフトウェア減価償却	0	64,000	0	0	0	0	0	0	0	64,000
ソフトウェア減価償却(名簿管理)	0	80,000	0	0	0	0	0	0	0	80,000
備品原価償却	0	4,000	0	0	0	0	0	0	0	4,000
消耗品費	0	88,000	0	0	0	0	0	0	0	88,000
印刷製本費	0	554,000	0	0	0	0	0	0	0	554,000
機器賃借料	0	222,000	0	0	0	0	0	0	0	222,000
光熱水料費	0	27,720	0	0	0	0	0	0	0	27,720
共益費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賃借料	0	371,388	0	0	0	0	0	0	0	371,388
保険料	0	13,000	0	0	0	0	0	0	0	13,000
租税公課	0	356,000	0	0	0	0	0	0	0	356,000
支払負担金	0	221,000	0	0	0	0	0	0	0	221,000
委託費	0	528,000	0	0	0	0	0	0	0	528,000
機器保守料	0	57,000	0	0	0	0	0	0	0	57,000
雑費	0	537,000	0	0	0	0	0	0	0	537,000
経常費用計	4,245,516	2,373,378	6,415,751	3,846,704	1,872,559	14,508,393	0	3,672,760	3,672,760	22,426,669
評価損益等調整前当期経常増減額	9,616,484	-2,373,378	-6,415,751	-3,146,704	-1,872,559	-13,808,393	0	4,327,240	4,327,240	135,331
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	9,616,484	-2,373,378	-6,415,751	-3,146,704	-1,872,559	-13,808,393	0	4,327,240	4,327,240	135,331
2. 経常外増減の部										
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
有価証券売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
有価証券売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	9,616,484	-2,373,378	-6,415,751	-3,146,704	-1,872,559	-13,808,393	0	4,327,240	4,327,240	135,331
法人住民税事業	842,715	0	0	0	0	0	11,813	269,887	281,700	1,124,415
当期一般正味財産増減額	8,773,769	-2,373,378	-6,415,751	-3,146,704	-1,872,559	-13,808,393	-11,813	4,057,353	4,045,540	-989,084
一般正味財産期首残高	195,242,194	-15,636,620	-35,326,988	-24,555,226	-11,112,214	-86,631,048	339,637	3,459,310	3,798,947	109,825,686
一般正味財産期末残高	204,015,963	-18,009,998	-41,742,739	-27,701,930	-12,984,773	-100,439,441	327,824	7,516,663	7,844,487	108,836,602
II 指定正味財産増減の部										
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	233,870,000	0	0	0	0	0	0	0	0	233,870,000
指定正味財産期末残高	233,870,000	0	0	0	0	0	0	0	0	233,870,000
III 正味財産期末残高	437,885,963	-18,009,998	-41,742,739	-27,701,930	-12,984,773	-100,439,441	327,824	7,516,663	7,844,487	342,706,602

2022年度第1回臨時理事会議事録

- 1 日時：2022年6月11日（土）14時00分～14時30分
- 2 場所：一般財団法人 日本教育会館（一ツ橋ホール）701会議室
議事進行：飯島事務局長
- 3 出席者：（順不同、敬称略） 理事総数12名
 - 1) 理事 出席者 8名（定款第40条に定める定足数の過半数以上の出席）
菅沼延之、加藤信一、望月正信、師富潤、酒迎和成、広重康成、松見準、
田島孝一
欠席者4名 長谷川徹、玉川宏、柏木実、渡部英利
 - 2) 監事 出席者 2名 徳嶋明宏、文谷嘉宏

出席理事及び欠席理事の確認の上、定足数に達しており、理事会が成立する旨の報告がなされた。
- 4 議事録署名人 定款第44条により、議事録署名人に代表理事（会長）及び監事とする
- 5 議事 役員改選に伴う代表理事、業務執行理事の選定について
事務局より役員改選に伴う代表理事、業務執行理事の選定について、定款第25条に基づき採決の結果、満場一致で業務執行理事が選定され、会長、副会長、専務理事を選定した。

選任された各理事は就任することに同意した。

業務執行代表理事	（会長）	広重康成
業務執行理事	（副会長）	望月正信
業務執行理事	（副会長）	菅沼延之
業務執行理事	（専務理事）	加藤信一

尚、会長は事務局長に 飯島 寿 を指名した。

広重康成会長より会長就任挨拶後、閉会した。

以上の議事を明確にするため、次に記名捺印する。

2022年6月11日

議事録署名人 代表理事 酒迎 和成 ㊟

監 事 徳嶋 明宏 ㊟

監 事 文谷 嘉宏 ㊟

B号航海記（第5回）

内海水先区水先人会水先人 会 員 栗 阪 肇

前回まで： 一等航海士として9隻目の乗船はB号であった。最初の航海では Roberts Bank（カナダ）で内地揚げの石炭を、次の航海では鉄鉱石を Port Walcott（豪州）で同じく積み、今回は内地向けの鉄鉱石を積むため Tubarao（ブラジル）で沖待ちを開始した。

4-37) Vitoria

ブラジル南東部、エスピリトサント州の州都。大西洋岸の港湾都市で、エスピリトサント湾内にあるビトリア島にあり、本土とは橋で結ばれる。1535年ポルトガル人が建設。

第二次世界大戦後、ミナスジェライス州の鉄山地帯と鉄道で結ばれ、同国最大の鉄鉱石積出港として発展。1962年以降積出量が大幅に増加し、それまでの港湾施設では扱えなくなったため、日本、イタリア、ブラジルの共同出資により北のトゥバラン（Tubarao）に大型の鉄鉱石輸送船が入港できる新港が建設された。（1983年完成）。

ビトリア港からは鉄鉱石のほか、コーヒー、モナズ石、木材などを積出す。同州の主要工業中心地でもあり、市内外には石油精製、繊維、精糖、コーヒー処理などの工場がある。リオと鉄道、道路で連絡。人口32万（2005年）。

ビトリア島は、海図には Iha de Vitoria と明記されています。島は、Santa Maria 川とその支流である Passagem 川とに挟まれています。Santa Maria 川から東に広がる大西洋に面している Esprito Santo 湾（エスピリトサント湾）に流れ出る河口にできた中州です。島の北側を流れる支流 Passagem 川は、川幅が狭いので川岸にマングローブの生い



船首甲板から撮影(インド洋)

茂る小川です。一方、Santa Maria 川の本流は、中洲であるビトリア島とその対岸である南側の両岸に港が広がっています。

ビトリア島の北西部には小高い山があります。一つは北側にある Morro de Frade Leopardo 山（標高 294m）。もう一つは名前が明記されていないのですが、標高 300m で山頂に大きなアンテナがあります。

ビトリア島と南側の Vila Velha 地区とは大橋で結ばれています。その橋の高さは 60m です。Vila Velha 地区の港には、鉄道の引込み線が多数見受けられます。これが鉄山地帯やリオに向かうものと想像しました。

Vila Velha 地区から東。大西洋へと突き出ているところに岬があります。Ponta de Santa Luzia といいます。その岬と Vila Velha 地区との間に標高 155m の小高い丘があり、その丘の上に寺院があります。海図には、Mor de Penha (155m) Convent (illum) とあります。

錨泊している本船から眺めていると、寺院というよりも「中世の城」のように見えまし



Vitoria の寺院



Vitoria の遠望

た。夜ライトアップされた姿は、アラブ王様の宮殿のようで青と白を基調として光沢を夜空に放っていました。

Vila Velha 地区から見ると東側、つまり、上記 Santa Luzia 岬から南にかけてずっと白く美しい砂浜が続きます。Praia de Itapua といいます。

この海岸線に、日本のプロ野球球場にあるナイター用夜間照明設備のような強力照明施設が、等間隔で並んでいます。

夜になると、その銀色に輝く照明の列は、宝石店のショーケースに陳列されるダイヤモンドのようでした。

一方、昼間の砂浜 Praia de Itapua は、海岸線のすぐ後ろ（西側）に道路が南北に走り、そのすぐ西奥に高層ビル群が南北道路に面

して並んでいます。ビルの色は白や茶色と様々ですが、高さはほぼ同じで、高級マンションかホテルのようです。そのビル群の後ろ（さらに西奥）遠くには標高 1,000 から 2,000m 級の山脈が南北に連なっています。あの山脈の向こうには世界三大美港のリオ（Rio de Janeiro）があります。

4-38) Tubarao

Tubarao を含むブラジルの港は、鉄鉱石の積荷スピードが世界一早いことで有名です。あまりにも早すぎて、時々船体にクラックが入るなど事故を起こしていますが。。

本船が鉄鉱石の輸出岸壁に着岸したのが、4月16日0105時。20万トンの鉄鉱石を積んで出帆したのが、同日2050時でしたので、20時間弱しか岸壁にいなかったこととなります。あまりにも忙しかったので、著者は上陸することができませんでした。

その一方、機関長以下5名は岸壁から対岸にある都市 Vitoria との中間にあるベッタウンまで買い物に出かけました。

沖の錨地にいる時にはわからなかったのですが、Vitoria 港の入り口には、Vitoria 島とブラジル本土（Vila Velha 地区）とを結ぶ大橋があり、その橋は夜間にはライトアップされて道路部分には黄色のライトが一定の間隔で光っていました。

着岸中の本船から見ると、大橋のすぐ左手（南側）に例の寺院がアラブ王様の宮殿のように青白く光っていましたが、それ以外の都市 Vitoria の街灯は、白か黄色で統一されていて調和がとれていました。

Tubarao とは、サメという意味だそうです。しかし、ここにはサメはいないよ。と、鉄鉱石の積荷の作業に従事しているブラジル人が教えてくれました。

Gパンに緑のシャツ姿である彼ら（港湾労働者）の中には、とんでもない猛者もいまし

た。著者は船乗りになって 15 年目、世界中の様々な港を訪れました。しかし、この Tubarao では最初で最後の経験をしました。それは、この労働者の一部が本船に来て、仕事をするのではなくて本船のカラオケ・セットで勝手にカラオケを開始したのです。

前船 A 号で、ブラジル Paranagua 寄港中、カーニバルの時期と重なったお話をしました。去年のカーニバルと、今回の船上カラオケ、ブラジル人にお祭り（イベント）好きには、またしても脱帽でした！



Tubarao での積荷

4-39) 桜花の季節

ブラジル Tubarao 沖の錨地で、積荷である鉄鉱石の順番待ちをしている 4 月 5 日から Tubarao 出帆までの 4 月 16 日、日本から桜便りが携帯へのメールで送られてきました。桜といえば春。春といえば新しい一年の始まりです。

＜草木も新芽を出すように新たな可能性へ一歩踏み出す。桜花の下、これから始まる新しい時間に気持ちが膨らみ始めている。今、自分の夢のつぼみも開く。自分の夢は、春になって花開く。可能性の花を開く＞

遠く日本を離れていても、桜など季節の便りをもらおうと望郷の念にかられます。

そして、世界中どこにいても、4 月になれば

ば新学期の始まりとして気持ちが切り替わります。

4-40) 2 回目の陸上勤務

Ponta de Madeira 港は、都市 Sao Luis から南西に車で 1 時間飛ばしたところにあります。

Sao Luis とは、マラニャン州の州都で、大西洋の湾入部にあるサンルイス島に位置する。島は狭い水路を隔てて本土と相對し、西のサンマルコス湾と東のサンジョゼ湾を分ける。1612 年フランス人が建設、当時のフランス国王ルイ 13 世にちなんで命名されたが、1615 年ポルトガル人が占領。

植民地時代は貿易で繁栄。当時の面影とどめる旧市街が保存され、1997 年世界遺産の文化施設に登録。

マラニャン州の主要港で、ババスヤシ油、トウゴマ、皮革、木材、綿花、砂糖、米などを積み出す。市内には精糖、ラム酒、綿織物、ババスヤシ油、マーガリンなどの工場がある。ブラジルの有名な詩人や作家が輩出、文芸中心地としても知られる。人口 70 万人（1991 推計）

余談ですが、著者 2 回目の陸上勤務は A 号乗船前、役職は海務監督、業務はほとんど出張でした。

例えば、①衣浦港（愛知県）へ寄港するチップ船の訪問。②船舶管理船に比国人船長が乗船するため、彼に付き添い工務監督と共に船主（東京都港区）と用船社（同じ）で乗船前ブリーフィング、そのまま仙台（宮城県）へ新幹線で移動し一泊、東北電力原町火力発電所（福島県）に翌日移動し、入港直後の石炭船を訪船。③常石造船所（広島県福山市）で建造中の新造船（KAMSARMAX、E 号航海記に登場する E 号同型姉妹船）の海上公試の立ち合いから竣工まで。④NACKS 造船所にて建造中の 30 万トン VLOC の海上公試の

立ち合い。

NACKS 造船所とは、川崎重工業船舶海洋ディビジョン（旧川崎造船）が運営している中国南通市の合弁会社。海上公試は造船所から揚子江を下り、東シナ海で行った後、揚子江を登った。

VLOC とは、Very Large Ore Carrier の略。⑤ブラジル総領事館（名古屋市）でのビザ申請。申請からブラジル出張まで短時間であったため、郵送ではなく直接訪問しての申請を行った。⑥ブラジル出張。Ponta de Madeira 以外にも Santos 港停泊中の 2 船を訪船。

話を戻して、Ponta de Madeira 出張中、2 回旧市街を訪れました。石畳が敷かれていて、レストランと土産物店、それにホテルが数件ありました。旧市街にある駐車場には、放し飼いの犬が沢山いました。旧港には観光船らしき船が停泊していました。その港の近くにバスターミナルがありました。

石畳の通りは、夜になるとレストランからテーブルと椅子が運び出されます。その石畳のオープンカフェで代理店 2 名（ブラジル人）と同僚 5 名とビールを飲みました。その時、ブラジル人から直接、街の歴史の説明を受けました。

フランス国王ルイ 13 世といえ、フランスが世界に誇る歴史小説の傑作『三銃士』物語の時代です。前船 A 号で訪れた仏国 La Rochelle、ルイ 13 世、ブラジル Sao Luis と、それぞれ個々の点であったものが、線で結ばれました。

4-41) 嵐の岬

4 月 27 日、夜の三等航海士の当直中に喜望峰（旧称・嵐の岬）沖を通過しました。沖と言っても、再び肉眼で喜望峰を確認できない遠距離でした。シンガポールからブラジルへ向かっていた西航の時も、そして、今回ブ

ラジルから大分へ向かっている東航の今回も、たまたま嵐に会いませんでした。

繰り返しになりますが、この辺りのアフリカ最南端は、南米最南端と同じく西からの風が強く吹くことが多く、大昔から航海の難所となっています。

天気図を見ていると、本船の前（東側）と後ろ（西側）は天気が悪く 10m 以上の波高が記されていました。その両方の時化は、本船とほぼ同じ速さで東に移動しています。

本船は船底から甲板上まで 24.5m あります。鉄鉱石 20 万トン積んでいるため、24.5m のうち 18m は絶えず海面の下に沈んでいます。残り 6m ほどが海面上に浮かんでいますが、波の高さが 6m 以上になると波が甲板上を襲うのです。波の方向によっても異なりますが、波のエネルギーで、甲板上にある様々な機器、パイプなどの構造物が壊されます。

（去年、著者の最初の航海でカナダ Roberts Bank から千葉県君津に帰ってくる時、アラスカ湾において大時化に遭いいくつか甲板上の構造物を壊され、その修理に時間がかかりました）。

ヨーロッパ人で始めてここを通過したバスコ＝ダ＝ガマは、どんな気持ちで嵐の岬を通過したのでしょうか？

晴れた夜には、天頂を大犬座シリウスが通過します。その近く（北側）に浮かぶオリオン座のペテルギウスやリゲルの水平線からの高度を観測して、祖国から 8,300km 以上も遠く離れた地にいることを知り、望郷の念にかられたこともあったでしょう。

<概算式：本国ポルトガル・スペインを北緯 40 度、嵐の岬を南緯 35 度とする。緯度の 1 度（60 分）は 60 海里。1 海里は 1.852km。
（北緯 40 度+南緯 35 度）×60×1.852＝8,334km>

ここから先の目的地インドまでは、どれだ

けの距離と時間がかかるか誰も知らない、つまり、海図がないので、冒険航海を継続することに大きな「勇気」が必要だったと思います。

実は、ブラジルを出帆してから5日目の4月21日、会社から業務命令をメールで受信しました。「9月1日付けで陸上勤務を再開するので、本船を次の内地（大分、または、北九州市戸畑、6月上旬）で下船し、所定の休暇を消化すること。」

2年前までの著者でしたら、会社の命令には素直に従っていました。しかし、「40歳までには船長になる！」という大目標を商船学校時代から立てていたため、社命に従おうかどうか21日からずっと迷っていました。

本船をもうすぐ下船できるのは嬉しいのですが、次は船長として乗船するのではなく、陸上勤務となると複雑な心境です。

4-42) インド洋

4月28日0530船中時（日本時間28日1330時）、大西洋からインド洋へと入りました。アフリカ最南端のAgulhas岬を通過したのです。

本船の位置は南緯35度08分、東経20度00分。Agulhas岬から南へ23海里、次の寄港地大分まで約1ヶ月、残り7,971海里の距離です。曇りで気温は17.5度でした。

昨夜、喜望峰を通過してからインド洋へ入るまでは、ずっと雲っていました。日の出の方向に一部青空がのぞいているだけです。

もしかして、4月21日から「複雑な心境」である著者の心を空模様は映しているのかなあ？と感じています。

シンガポールからブラジルへ向かっていた3月、インド洋は夏色でした。あれから2ヶ月弱しか経過していないのですが、海は変化していました。4月末といたら南半球では日本で言う10月末なので、海が変化する

のは当然と言えばそれまでなのですが。

甲板上で仕事をしている時、半そで1枚では少々寒いです。その季節変化に気づくのを遅れた著者は、ここ2日ほど風邪気味で、いつもの「元気」がありません。

日記作成（本編B号航海記のモトネタ）のため「元気なし」とキーボードをたたいた直後、自室の窓の外を眺めると沢山の（1,000羽以上はいたと思います）海鳥が魚を取ったり、海面で遊んでいました。イルカの群れも船に遊びに来たのです。海鳥はここ2、3日目にしましたが、沢山の海鳥に加えてイルカの群れを見たのは久しぶりです。きっと、著者に元気がないので「元気を出せ！」と励ましてくれているのでしょう。

ここから先、大分までは来たルートとは別ルートを通ります。Chagos Archipelago 諸島（英国領）、モーリシャス諸島、マダガスカル島の南を通過するのではなくて、アフリカ大陸南端を離れたらインドネシア領スマトラ島とジャワ島との間にあるスンダ海峡を目指して最短コースでインド洋を横切るのです。（次号に続く）

新・大島丸のブロック建造が進んでいます

新・大島丸 ブロック検査報告

大島商船高等専門学校 商船学科長 千葉 元

新・大島丸の起工式は、2022年3月1日に三菱造船下関江浦工場内で実施され、その後、部材加工からブロック建造が進み、6月1日より、完成してきたブロックの建造状況の検査が実施されてきました。

当船は上甲板より下層が鋼製の16ブロック、上層がアルミ製の6ブロックで構成されています。

ブロック検査は、各ブロックについて中組、完成の2段階の検査が行われ、三菱造船下関江浦工場内では、ほぼ毎日の検査が実施されています。

船主監督員としては、1～2週間に1回のペースで現地での検査立ち会いを実施しています。こうした状況の報告を行わせていただきます。



写真1 機関室二重底ブロック[反転状態]
(2022/6/1)

写真1は機関室二重底ブロックの中組状態であり、写真2が同ブロックに外板面を取り付けた状態となります。

このブロックの完成検査時には、実際に二重底内に入っての検査も行いましたが、工作技術や精度の高さに感心させられると同時に、実際の二重底内に入らせていただいたのは良い経験となりました。



写真2 機関室二重底ブロック[反転状態]
(2022/6/7)

写真3は船体中央部の二重底ブロックです。ビルジキールが取り付けられていることが分かります。



写真3 船体中央部二重底ブロック[反転状態]
(2022/6/13)



写真4 機関室二重底ブロック（写真1、2を経ての完成状況）(2022/6/20)

写真 4 は機関室二重底ブロックの建造状況であり、写真 3 と共に既にいくつかパイプの類が実装されてしました。

ブロック建造時に可能な限りの配管設置等を行うとこのことです。

写真 6 に示すように、船首部の形状も精巧に作り上げられています。



写真6 船首船底ブロック[反転状態]
(2022/6/30)



写真7 アルミ上構(操舵室)ブロック[反転状態]
(2022/6/30)



写真5 アルミ上構(居住区)ブロック[反転状態]
(2022/6/16)

写真 5, 7 に示すように、鋼製ブロック製作とは別工場にて、アルミ上構造部のブロック建造が進められています。

検査完了時には対象ブロックの鋼板へのサインを行います（写真 8）。



写真8 船主監督員のサイン

今後の予定としては、2023 年 3 月の竣工を目指し、8 月上旬までブロック建造が続きます。そして、7 月頃より船台にて完成した

ブロックの組み立て工事が始まり、10月13日に進水式が実施される予定です。引き続き、こうした建造過程の検査立ち会い等を行い、

全船協会員の皆様に建造の進捗状況の報告をさせて頂きたいと思っております。

以上

新・大島丸 ブロック検査及び建造状況検査報告

大島商船高等専門学校 技術支援センター 本庄 孝光
(大島商船高等専門学校 電子機械工学科 5期生 平成6年卒)

私は大島商船高等専門学校技術支援センターに属し、実験補助や工場実習、機材製作等を業務としており、工場実習では現在アーク被覆溶接を担当しています。

ど、プロフェッショナルである造船所の方から見れば初歩の初歩のような質問まで聞いていただき、私自身知識を身につけることができたのではないかと考えています。

令和5年竣工予定の新・大島丸は三菱造船下関江浦工場でブロック建造が進んでおり、この度建造中の船殻工事の検査立ち会いをする機会があり参加させていただきました。



写真9 三菱造船下関江浦工場前で撮影

工場実習で作業台でのアーク溶接と異なり、自動化されていることや施設、その規模など普段と全く違う溶接の世界に自分では判ってはいらぬつもりですが圧倒されてしまいます。

船殻工事の検査では、工事が施工要領の通りに施工及び処理がなされているかの確認になりますが、各種溶接法の適用範囲から手溶接による補修要領、強度を確保する方法な



写真10 船殻工事検査

検査立ち会いの他、同船のブロック建造している他のエリア内にも入らせていただきましたが、普段では全く見ることのできないプロの仕事も許可をいただいたうえで間近で見学させていただきました。

自動溶接があるとはいえ手溶接する範囲は広く、作業員は姿勢を確認してから始める溶接は常に同じ条件であることを、溶接から発する時間の経過に関係なく一定の光や音で判断できます。

次に機会があるのならまた改めて見学させていただきたい個所でもあります。



写真11 船殻溶接作業状況

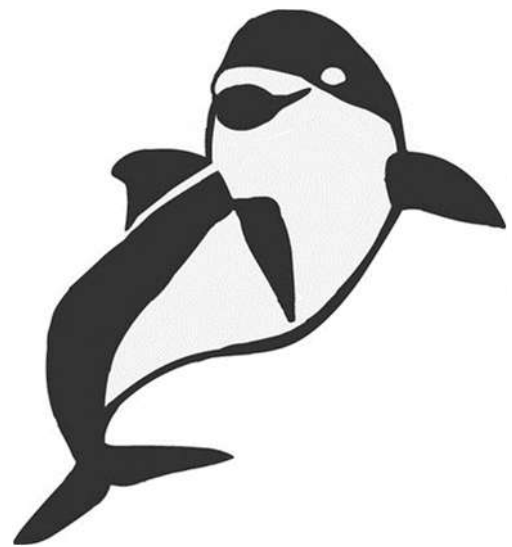
新・大島丸の上部建造物はアルミで構成され、そのブロック製作過程も見学させていただきました。商船高専に勤めているとは言え実習工場が主たる職場の素人同然の私には、最近の船の傾向なのか、練習船という特殊性なのか判らず、質問することも忘れていたのですが軽合金であるアルミがかなりの広範囲に使われているのだなという印象を持ちました。



写真12 アルミ製構造物工事状況

以上、実際には造船所の中を右往左往し、あらゆるものに圧倒されて続けていた技術職員ですが、技術を指導する側として今回の貴重な経験を次の実習に活かして、今後学生に伝えることができるよう努力してまいります。

以上



姫路海洋少年団 活動報告

姫路海洋少年団 指導員 瀧本 義夫



海洋少年団制服姿の筆者



センター棧橋にて（左端が筆者）



環境学習センターにて

毎年、姫路海洋少年団の夏休みの活動は姫路沖合の男鹿島にある「立の浜海水浴場」であったが、2021年度は同島近くの西島にある「兵庫県立いえしま自然体験センター」になりました。

前日までの長雨も止み、当日は日差しを見る天候に恵まれ、姫路港より坊勢汽船に乗って出港。坊勢島で輝汽船に乗り換え、「センター棧橋」まで約1時間。夏の朝風を船上で受け、心地良い移動となりました。

センター本部は棧橋からは島の反対側、峠を越え約20分の道程。一汗かいた後、早速、環境学習センターにて担当者の方から播磨灘に棲む生きものたちを紹介され、ウニ・ヒトデ・タコ・魚と触れ合う生態学習ができました。



昼食中



シーカヌー体験

昼食は姫路の食品会社さんから差し入れ弁当、ジュースも頂き、元気回復。

午後からはシーカヌー体験、カヌーの準備・後片付けも手伝い、カヌーの安全性の大切さも学びました。

その後は海水浴水泳訓練へと、充実した1日となりました。 以上

姫路海洋少年団のホームページから活動内容の紹介です





富山高等専門学校

新型コロナウイルス感染者数が連日、報道されておりますが、富山高専では教職員・学生ともに各自が感染対策を行いながら相互に呼びかけを行いながら、授業／学校行事を行なっているところです。4月1日（金）入学式から始まりました令和4年度の本校での取り組みをご報告させていただきます。



入学式の会場の様子(新入生)

○ 令和4年度入学式を挙行

令和4年度入学式が令和4年4月1日（金）に富山市芸術文化ホール（オーバード・ホール）にて挙行されました。新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で、入学式を挙行することができました。入学式では國枝 佳明校長から入学者の名前が一人ずつ読み上げられ、その後、「新入生の皆さんが、本校の恵まれた環境の中で、より多くのチャレンジをし、今後の社会変化に対応しながら、自分の未来をきちんと選択できる人間に大きく成長されることを、我々教職員一同は心から願っています。」と式辞が述べられました。つづいて、新入生代表挨拶にて、本科・専攻科それぞれの代表者が、仲間と切磋琢磨し、日々精進し続けることを誓いの言葉として述べました。

令和4年度4月入学者は以下の通りです。

< 学科新入生 >

機械システム工学科	43名
電気制御システム工学科	42名

物質化学工学科	44名
電子情報工学科	42名
国際ビジネス工学科	44名
商船学科	40名
計	255名

< 編入学留学生（学科3年次へ） >

電気制御システム工学科	1名
物質化学工学科	1名
計	2名

< 専攻科 >

エコデザイン工学専攻	29名
制御情報システム工学専攻	13名
国際ビジネス学専攻	5名
計	47名



入学式の会場の様子(壇上)



新入生代表 挨拶(本科)



新入生代表 挨拶(専攻科)

○ 対面式・始業式を実施

4月4日(月)対面式・始業式を行いました。式に先立ち、本郷・射水両キャンパスを遠隔で接続し、今年度から着任された國枝校長の訓示がありました。つづいて、学生らはクラス毎に遠隔で対面式と始業式に参加しました。ホームルームを挟んで、今年度の授業がスタートしました。

○ 新入生への練習船オリエンテーションを実施

4月13日(水) 商船学科、5月25日(水)

国際ビジネス学科、6月22日(水) 電子情報工学科の学生が午後半日をかけて若潮丸に乗船しました。各クラス4班に分かれて甲板、船橋、居室、機関室をまわりました。商船学科の新入生は実習を行う練習船若潮丸に本校学生として最初の乗船となりました。航海/機関コース選択をする際に、オリエンテーションでの経験も思い出されるものと思います。

国際ビジネス学科の学生らは物流の入口となる港を海側から見る経験となりました。日本の輸出入に欠かせない船舶の乗船体験となりました。船舶の安全運航において、情報通信技術は重要なツールとなります。電子情報工学科の学生らは船舶の電子機器・情報技術がどのように使われているかを見学することができました。射水キャンパス3学科それぞれで学びを深める学生らがクラスの融和を育むオリエンテーションを通して、将来にわたり有意義な経験になることを願っております。



実習場での整列



若潮丸乗船



ブリッジ見学の様子

○ 保護者による授業参観を実施

4月22日(金)、射水キャンパスにて保護者による授業参観を行いました。見学者はマスクの着用を必須として新型コロナウイルス感染対策を講じた上で、多くの保護者に来校いただきました。ご家庭とはまた違った学生の様子を把握できたものと思います。

授業参観の後は一時間ほどかけて校内の施設見学を行いました。教室や操船シミュレーター、ディーゼルエンジン、演習室、図書館、実習工場など本校での学びを深めるための設備が紹介されました。短い時間ではありましたが学びの様子が伝わったものと思います。

(教務主事補 商船学科 経田僚昭)

○第14回高専祭-北斗祭-を開催

令和4年5月21日(土)および22日(日)に射水キャンパスにて、第14回高専祭-北斗祭-が開催されました。

北斗祭の開催は4年ぶりとなります。

今年の北斗祭のテーマは「BREAKCRUSH」でした。「BREAK+CRASH」と「BREAK+RUSH」を組み合わせ、コロナの形式を壊す、休憩、大ブレイクを起こす意味をもつ「BREAK」と「CRASH」そして、感情の爆発や人が集まるという意味をもつ「RASH」を組み合わせ、4年ぶりの北斗祭をコロナ禍の生活で疲れ切った心



北斗祭の様子(ステージ発表・日舞)



北斗祭の様子(ステージ発表・吹奏楽部演奏)



北斗祭の様子(模擬店)



北斗祭の様子(若潮丸体験航海)

と体を癒やし、元気にしようという北斗祭実行委員の願いが込められています。

多くの模擬店、多彩なステージ企画の他、

- ・ YouTuber かつつーさんのステージ出演
- ・ 各学科による学科展示
- ・ 各学年・クラスによる多彩なクラス展示
- ・ 文化系クラブの展示やステージ発表
- ・ 若潮丸の体験航海

などたくさんの催しがありました。本郷キャンパスからも、学科展示のほか、鉄道部、メカテック部、知能プログラミング研究部、美術部等が参加しました。地域の方々による大正琴演奏や後援会の方々による模擬店も行われました。

○ 高等学校総合体育大会

令和4年度富山県高等学校総合体育大会（中心会期6月4日（土）～5日（日））及び令和4年度北信越高校体育大会（6月中旬～7月下旬）が実施されました。

ヨット部は6月17日から6月19日に石川県滝港マリナーで行われた北信越大会ヨット競技の男子レーザーラジアル級で、商船学科2年嶋倉侑司さんと商船学科3年殿村大輝さんが1位・2位を獲得して全国大会出場を決め、男子コンバインド（団体）でも優勝を果たし、本校に優勝旗を持ち帰りました。

7月6日現在、本校からは以下の部の全国高校総体（インターハイ）出場が決定しております。

<全国大会出場団体>



全国大会出場選手(ヨット部)

○ 第57回北陸地区高専大会

6月25日（土）、7月2～3日（土・日）の計3日間、第57回北陸地区高等専門学校体育大会が石川高専の主管で開催されました。本年度は、以下の部が全国大会への切符を手に入れました。

<全国大会出場団体>

- ・ 陸上（男子砲丸投・男子円盤投）
- ・ テニス（男子団体・男子シングルス・男子ダブルス）
- ・ 卓球（女子シングルス・女子ダブルス）
- ・ 剣道（女子団体・女子個人）
- ・ 水泳（女子200mメドレーリレー・女子200mリレー・女子50m自由型・女子100m平泳ぎ・女子100mバタフライ・女子100m自由形・女子100m背泳ぎ・女子200m個人メドレー）
- ・ 柔道（男子73kg級）

○交通安全講習会

5月11日（水）、原動機付自転車・普通自動車免許取得者と同免許取得希望者の4年生・5年生・専攻科生を対象として、交通安全講習会が行われました。射水警察署から講師をお招きし、交通事故防止のために注意すべき点などをお話して頂きました。

講習会の後は、JAF富山支部より派遣いただいたシートベルトコンビンサー（模擬衝突体験車）に乗車し、シートベルトの重要性を体験することができました。



講習会の様子



シートベルトコンビンサー体験の様子

(学生主事補 商船学科 布目明弘)



北斗会便り

日本中が連日の気温が記録を更新する異常気象の中、ここ富山も常に全国の10位以内に入るほどの暑い日々が続いています。

北斗会は先の6月4日に3年ぶりのリアル「総会」を富山電気ビルレストランで開催しました。

コロナ感染症の猛威の前に「書面決議総会」や「リモート総会」にせざるを得なかった3年間で参加理事の顔ぶれも殆どが変わり、ある意味で新鮮な感覚さえ覚えました。

会議前には手指消毒、会議中はマスク着用、参加者の座席間隔は1m、マイクの持ち回り禁止等の対策を取りながらのものでしたが、マスク越しながらも発言者の表情など明らかにリモート会議とは異なるもので、予定時間を1時間ほど超過するほどの熱い会議となりました。

総会終了後の懇親会のコロナ対策としては、各テーブルの席数を通常の半数とし、料理は銘々の弁当形式で飲み物は個々の手酌としたものでしたが、新任の國枝校長先生を迎えて3年ぶりの宴席は大いに盛り上がりました。

昨年11月に、永守 徹前会長から引き継いだ玉川 宏新会長にとって初めての総会は、就任にあたっての基本方針表明や議事進行など順調にこなされるなか今後への北斗会の運営、改革に対する意欲に頼もしさが感じられるものでした。

北斗会は安泰です！！

北斗会事務局 佐々木

鳥羽商船高等専門学校

○ 本校学生が BCN IT ジュニア賞を受賞しました

令和4年1月21日(金)、本校学生が「BCN IT ジュニア賞」を受賞しました。

「BCN IT ジュニア賞」は、2006年に株式会社BCNにより、技術立国日本の次代を担う若い世代にモノづくりの情熱を伝え、IT産業にひとりでも多くの優秀な人材を招き入れるために創設されました。

特定非営利活動法人 IT ジュニア育成交渉協会と協力して、ITに取り組む若者を対象としたコンテストで優秀な成績を収めるなど、優れた技術を持つITジュニアを毎年表彰しています。

今回は、第32回全国高等専門学校プログラミングコンテストで文部科学大臣賞を受賞したチームが表彰されました。



○ 第10回高校・高専気象観測機器コンテストの受賞報告会を実施しました

令和4年2月4日(金)、昨年12月20日に開催された第10回高校・高専気象観測機器コンテストで特別賞を受賞したチームの学生が、和泉校長へ受賞報告を行いました。



○ 和泉校長と寮生会役員との懇談会を実施しました

令和3年11月19日(金)には女子寮生代表、令和4年2月7日(月)には男子寮生代表が和泉校長と懇談を実施しました。

春には和泉校長と寮生会役員との懇談会を実施しましたが、今回は1年生から5年生までの男子寮生と女子寮生を別々に集め、高学年の視線や低学年の視線から見た寮生活について、より具体的な意見交換を行いました。



○ 令和3年度第3ブロック専攻科研究フォーラムにて本校学生が優秀賞を受賞しました

令和4年2月25日(金)にオンラインにて、令和3年度第3ブロック専攻科研究フォーラム

が開催されました。

このフォーラムは、第3ブロック内の専攻科生が日頃の研究成果を発信し、議論・情報交換することでブロック全体の研究及び産学連携を推進するものとなっています。

本校からは、専攻科生6名が参加し、機械学習を用いた給餌時の活性判定による海面養殖支援の発表について、優秀賞を受賞しました。

○「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」に本校の事業が採択されました

文部科学省による「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」について、本校の事業が採択されました。

【事業概要】

デジタル社会への環境変化に対応した資質・能力を涵養するため、DX教育設備を活用した教育カリキュラム開発や実験・実習の高度化など、「デジタル×専門分野」の教育を進め、我が国の産業界等のデジタル化・高付加価値化をけん引する高度専門人材育成を加速することを目的とします。

詳細については、以下の文部科学省ホームページをご覧ください。

【 https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/sankangaku/1413155_00015.htm 】

○ 第33回電子機械工学科及び第30回制御情報工学科卒業証書授与式並びに第16回専攻科(生産システム工学専攻)修了証書授与式を挙行了しました

令和4年3月19日(土)、第33回電子機械工学科及び第30回制御情報工学科卒業証書授与式並びに第16回専攻科(生産システム工学専攻)修了証書授与式を挙行了いたしました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、式典会場への入場は卒業生・修了生、来賓、学校関係者に限定し、保護者のみなさまにおいては、別会場でYouTubeのライブ配信にて式典の様子をご覧いただきました。

式典では、和泉校長より各学科の代表者それぞれに証書が授与された後、「これからの人生、良いこともあれば難しい問題にぶつかることもあります。

みなさんはひとりではない。今日ここに集まっている卒業生の友人、保護者、教職員の方々、先輩や後輩たちと絆をしっかりと結んでください。」と式辞が送られました。

卒業生、修了生は鳥羽商船高専での思い出を胸に、晴れやかな姿で本校を巣立っていきました。



○ 令和4年度入学式を挙行了いたしました

令和4年4月6日(水)、令和4年度入学式を挙行了いたしました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、出席者は新入生と式典関係者のみと限定し、保護者のみなさまにはライブ配信で別室にて式典の様子をご覧いただきました。

今年度は、商船学科40名、情報機械システム工学科80名、情報機械システム工学科4年次編入生1名、情報機械システム工学科3年次編入の留学生1名、合計122名の新入生と専攻科生産システム工学専攻に9名の進学者を迎えました。

和泉校長より「人はお互いの支えがなければ生きられません。私たち人間には、それぞれ個性があります。日頃のクラスにおいても、それぞれの得意なところを互いに認め、理解し助け合ってください。

また、自分自身の将来の目標、すなわち「志」をたて、ぶれない・諦めないで「志」に向かって努力してください。」と式辞が述べ

られた後、商船学科の新入生代表と専攻科生産システム工学専攻の進学者代表それぞれから新しいスタートにあたっての抱負が述べられました。



○ 文部科学省、高専機構本部の方々が本校を視察されました

令和4年4月7日（木）、文部科学省及び高専機構本部の方々が本校を訪れ、鳥羽丸などの学内施設を視察されました。



○ AIビジネス創出アイデアコンテストで人工知能技術コンソーシアム会長賞を受賞しました

令和4年2月15日（火）にオンライン開催された「AIビジネス創出アイデアコンテスト」にて、本校学生チームが出場し、人工知能技術コンソーシアム会長賞を受賞しました。

本コンテストは、大阪商工会議所と国立研究開発法人 産業技術総合研究所の人工知能技術コンソーシアムが主催となり、人工知能（AI）技術を活用した新ビジネスの創出を支援するため実施されているものとなります。

本校の制御情報工学科、情報機械システム

工学科の学生によるチーム【白石・近藤 LAB】は、「野菜のサステナブルスマート農業！！」というテーマで応募し、書類審査を経たファイナリスト7者に選ばれ、公開プレゼンテーションを行ったのち、2位相当の人工知能技術コンソーシアム会長賞を受賞しました。



○ 本校教員が参加する国際研究グループが最遠方の銀河候補を発見しました

このほど、本校の山中准教授（一般教育科）が参加する国際研究グループは、135億光年かなたの宇宙に存在する明るい銀河の候補、HD1を発見しました。

これまで見つかった銀河の中で最も遠方の銀河、GN-z11より1億光年遠く、ビッグバン後わずか3億年後、135億年前の銀河とみられます。

○ 第147回「気象記念日」に気象庁長官表彰を受賞しました

令和4年6月1日（水）第147回気象記念日において、気象庁より、本校が多年にわたり地域気象観測所の委託観測業務に協力し気象業務の発展に寄与したことが評価され、気象庁長官表彰を受賞いたしました。

令和4年6月2日（木）、津地方気象台の本松台長が来校し、和泉校長へ表彰状を授与されました。



(商船学科航海コース 齊心俊憲 記)

鳥羽商船高専同窓会だより

○ 鳥羽商船同窓会 理事会・総会・懇親会 3年ぶりに開催

6月12日(日)快晴の元、母校にて3年ぶりに開催しました。

長引くコロナ禍ではありましたが、With Corona の中、感染予防に注意しながらの開催で、理事会に24名、総会、懇親会に34名の計60名の同窓の皆様が参加して母校で開催しました。

菅沼会長は令和7年の母校創基150周年、同窓会創立100周年、母校新練習船就航に向けての3大慶事への意気込みを熱弁されました。

又、和泉校長から3年後の母校創基150周年に同窓会からの多額の寄付の謝礼と令和7年に新練習船の就航も予定されており、同窓会創立100周年の式典と共に催したいとのお話がありました。

又、懇親会は風光明媚な鳥羽国際ホテルで開催しました。

母校から和泉校長はじめ、事務部長、副校長、三学科長の皆様、母校在校の寮生会、学生会から8名の後輩、来賓として鳥羽市小竹教育長、鳥羽選出の野村県議、同窓の伊勢選出の廣県議を招いて美味しい料理をいただきながら懇談しました。

コロナ禍のため、いつものように自由に歩き回り歓談というわけにはいきませんでした、

アトラクションではDVDの船歌集を録音した伊勢音楽劇場のコーラスのメンバーに船歌、校歌を歌っていただきました。

私たちが学生時代教わった懐かしい曲をプロのコーラスの歌声で聞くと青春時代を思い出し、郷愁に浸る時間を過ごさせてもらいました。

最後は来年開催地、東日本支部、水野支部長の万歳三唱で締めくくりました。



鳥羽商船同窓会事務局長 江崎隆夫 記

広島商船高等専門学校

□ 令和4年度 入学式を挙行

爽やかな春の陽気の下、商船学科 42 名、電子制御工学科 45 名、流通情報工学科 45 名、編入学生 3 名、留学生 1 名、専攻科産業システム工学専攻 6 名が入学しました。

河口信義校長からは「有意義で実りある学生生活を送るための 3 つの要望」という式辞があり、電子制御工学科 中本夏矢さんが新入生総代として「校則を守り、学生としての本分を尽くして、社会に有為な人物となるよう努力することを誓います」と宣誓しました。

また、来賓の内閣総理大臣補佐官 衆議院議員 寺田稔氏・大崎上島町長 高田幸典氏の祝辞に引き続き、坂本まひる学生会長の「広島商船でしか経験できない新鮮で楽しいことはたくさんあるので、皆さんにたくさんの思い出ができるよう全力でサポートします」という歓迎の挨拶がありました。



入学式

□ 新入生オリエンテーションを実施

4月6日(水)～4月8日(金)にかけて、国立山口徳地青少年自然の家で新入生オリエンテーションを実施しました。

令和 2・3 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったため、3 年ぶりの実施となります。

今年度より、学生会役員並びにクラブ及び同好会の代表者からなる、上級生が同行することになりました。これは、起居を共にする研修の

なかで、学生が主体となって、新入生のサポートを行うことを目的としています。

3 日間晴天に恵まれ、徳地アドベンチャー教育プログラムやオリエンテーリング、学生交流イベントを通し、新入生同士及び新入生と上級生や教職員の人間関係を深めることができました。



オリエンテーション

□ 前期クラスマッチ開催

5月31日(火)に令和4年度前期クラスマッチを開催しました。

当日は天候に恵まれ、体育局の学生主導のもと、学生たちは各種目において白熱した試合を繰り広げました。感染対策を講じながらの開催になりましたが、学年の枠を超えての行事ということもあり、リフレッシュできる良い機会になったと思います。

□ 進学説明会開催

中学生や保護者の皆様に本校のことを知っていただくため、進学説明会を開催しました。今年度は広島会場（5月28日）と福山会場（6月4日）の2会場で開催し、両会場合わせて53名の生徒さんにお申し込みいただきました。

当日は、本校の4年生と5年生に協力してもらい、学科の説明や個別相談を実施しましたので、参加された生徒さんに学生目線でのアドバイスをすることができました。

今後も、本校の魅力を知っていただくため様々なイベントを開催予定です。



進学説明会

□ 日本航海学会論文賞を受賞

本校の清田准教授、岸講師、水井名誉教授、大島商船高等専門学校の千葉教授が日本航海学会論文集において発表した「消滅可能性離島における海事史のデジタルデータ化とデータ活用方法についての一考察」が、2022年度論文賞に選ばれました。

校友会

□ 校友会総会

2022年総会を5月14日（土）ホテルグランヴィア広島にて開催しました。

コロナ感染拡大防止のため、懇親会は中止とし、理事会・総会のみ行いました。

□ 合祀式

今のところ、商船祭と並行して行う予定ですが、コロナ感染状況によっては、中止となる可能性があります。

2022年6月現在の名簿を作成しました。

購入希望者はお知らせください。

思い出の船歌集のCD・DVD在庫がありません。

広島商船高等専門学校校友会

電話：0846-65-3899

（月、水、金）

E-mail：koyukai@hiroshima-cmt.ac.jp



大島商船高等専門学校

○ 令和4年3月から令和4年6月にかけて行われた主な式典，教育活動，地域連携活動などを中心に紹介します。

1. 式典・行事

○ 令和4年度入学式挙行

令和4年4月5日(火)，本校において，令和4年度入学式を挙行了しました。

今年度は，商船学科39名，電子機械工学科41名，情報工学科40名の合計120名が入学し，また，専攻科電子・情報システム工学専攻に14名が入学しました。

さらに，情報工学科の第3学年に1名の留学生在が編入学しました。

古莊校長は，新入生に対して「人と人が接する沢山の機会にも思いやりが必要です。お互い恥ずかしがらずにまずは挨拶を交わし，言葉を交わしてください。」と話し，式辞としました。

続いて，本科および専攻科の代表学生が入学の宣誓を行いました。

新入生はこれから始まる高専生活に期待を膨らませている様子でした。



令和4年度入学式の様子

2. 教育活動

○ メイクマナー・スキンケア講座(第4学年対象)を開催

令和4年5月30日(月)放課後，株式会社ポーラ様より講師をお招きして，メイクマナー・スキンケア講座を開催しました。

本講座では，お化粧の効果やビジネスメイクとおしゃれメイクの違い，各種化粧品の使い方やスキンケアについて学びました。

本講座には4年生24名が出席しました。また，学生がメイクのモデルを務めたほか，終了後も多数の学生から講師の方への相談があり，実演を交えて丁寧に対応して頂くなど，大変有意義な講座となりました。



メイクマナー・スキンケア講座の様子

○ キャリア講演会(第3学年対象)を開催

令和4年5月30日(月)のLHRの時間を利用して，本校情報工学科卒業生の講師(現在，国立研究開発法人 海洋研究開発機構(JAMSTEC) 副主任研究員)をお迎えし，キャリア講演会を開催しました。

本講演会は，講師がご在籍の海洋研究開発機構における「JAMSTEC 50周年記念事業 母校訪問プロジェクト」の一環としても開催されました。

講演会には3年生約120名が出席し，講師の学生時代から現在の研究に至るまで，体験談や研究活動等について，お話をさせていただ

きました。

後輩である本校在校生にとっても、今後の学生生活や将来を考えるうえで、大変貴重なお話を伺うことができました。



キャリア講演会の様子

3. 地域連携活動, 公開講座など

○「海ごみゼロフェスティバル in 周防大島」に参加

令和4年5月29日(日), 世界中で問題になっている海洋ごみを減らそうと周防大島町と町 B&G 海洋センターが「海ごみゼロフェスティバル in 周防大島」を開催し, 協力団体である本校も参加しました。

町内や近隣学校, 団体から約 90 名が参加し, 本校からも古荘校長をはじめとする教員 3 名, PWC レスキュー同好会やヨット部, コンピュータ部の学生 8 名が参加しました。

また, 本校 OB (海洋研究開発機構研究員, 大島商船客員教授) による, マイクロプラスチックについての講話があり, 小さなプラスチックを砂浜で探すフィールドワークもありました。



海ごみ回収後記念撮影(海ごみゼロフェスティバル in 周防大島)

4. 学校 PR 活動, クラブ活動の表彰など

○ 第1回オープンキャンパスの実施

令和4年6月11日(土), 本校にて第1回オープンキャンパスを開催しました。

当日はあいにくの悪天候でしたが, 山口県内を中心に福岡県や広島県等から 162 名(うち中学生 77 名)の方にご参加いただきました。

今回はフリー見学とし, 興味のある研究室や施設を自由に見学していただきました。

短い時間ではありましたが, 研究室で教員の解説を聞いたり, 装置を動かしてみたり, 様々な体験をしていただけたことと思います。



操船シミュレータの体験

○ 令和4年度山口県内3高専合同説明会を実施

令和4年6月18日(土)に下関市立川中学校にて, 中学生・保護者, 中学校教員を

対象とした、本校、徳山高専、宇部高専の3高専合同説明会を実施しました。

本校展示ブースでは、商船学科、情報工学科、電子機械工学科の各学科による体験学習や学科紹介を行いました。

○ 起業家甲子園においてコンピュータ部の学生が『総務大臣賞』を受賞

令和4年4月11日(月)に総務省中国総合通信局長から『総務大臣賞』が本校コンピュータ部の学生(電子・情報システム工学専攻1年生2名、情報工学科5年生1名、電子機械工学科4年生1名)に授与されました。



賞状授与

○ 第29回コンピュータフェスティバル受賞

令和4年3月14日(月)～18日(金)に、オンライン開催された第29回コンピュータフェスティバル(松江工業高等専門学校主管校)において、本校コンピュータ部の学生が複数の部門で受賞しました。

本年度は新型コロナウイルス禍の開催であったことから、オンラインにおける大会となり、ゲーム部門:30作品、メディアコンテンツ部門:19作品、アプリケーション部門:11作品のエントリーがありました。

○ 第3回全国高専DICON2022で本校学生が準優勝と経済産業大臣賞を受賞

令和4年4月28日(木)、29日(金)に高専制度創設60周年記念・第3回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2022(通称:DICON)が開催され、北風教授の指

導する学生が経済産業大臣賞、KDDI賞、AGC賞を受賞しました。

ディープラーニングコンテストは、高等専門学校の学生が日頃培った「ものづくりの技術」と「ディープラーニング」を活用した作品を制作し、その作品によって生み出される「事業性」を企業評価額で競うコンテストです。

○ 技術英検で文部科学大臣賞を受賞

令和4年1月に行われた第128回技術英語能力検定2級において、電子機械工学科5年(受験当時は4年)の学生が優秀な成績で合格し、文部科学大臣賞を受賞しました。

この技術英検(旧工業英検)は、公益社団法人日本技術英語協会が「科学技術文書を英語で読む能力・書く能力を客観的に正しく評価する」ための資格検定試験として、1981年から年4回実施しています。

本校学生が受賞した文部科学大臣賞(2級)の受賞基準は「大学専門課程、高専上級学年、専修・専門・各種学校在学生で得点が90%以上ある受験者から最も得点が高い者」とされており、受賞の報告を受けた古荘校長は「おめでとう」「これからも頑張ってください」と激励の言葉をかけていました。

◎おわりに

令和4年4月に本校に新型コロナウイルス感染症の拡大が発生しましたが、5月末には全学年の対面授業を再開しました。

そのため、前期の教務日程に一部変更はありますが、今後の各種行事やイベントは通常通り実施の予定となります。

また、本校HPには大島丸代船建造プロジェクト(MOTUNUI PROJECT)が紹介されており、新・大島丸の設備照会や建造の進捗状況を報告しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

新型コロナウイルス感染症が依然として猛威を振るっている状況ですので、皆様におかれましても、健やかにお過ごしなれますようお祈りいたします。

(商船学科 渡邊 武 記)

小松会だより

○ 令和4年度理事会・総会および大島丸IV世号進水式並びに祝賀会のご案内

大島商船高専同窓会理事の皆様、ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。この2年間はコロナの影響で、ハガキによる理事会・総会とあいなり誠に心痛おかけし、申し訳ございませんでした。書面にてお詫び申し上げます。

さて、今春より建造を進めてまいりました練習船・大島丸IV世号の進水式・祝賀会を下記のように執り行うことになりました。そこで、例年ですと10月初旬に学校で開催しておりました同窓会理事会・総会を、この進水式の前日に下関市にて行いたいと存じます。

各地区小松会に置かれましては、理事2名をご選出いただき理事会・総会および進水式そして祝賀会にご参加いただきますよう、ご案内申し上げます。まずは、略儀ながらご案内申し上げます。

敬具

記

1. 会合の名称

【令和4年度理事会・総会】

【創立125周年記念・高専設立60周年記念・大島丸IV世号進水祝賀会】

2. 同窓会理事会・総会及び夕食会について

・令和4年10月12日(水)

1400～ シーモールホール・ホール3

18:00～ 夕食会(@2,000会費)

・夕食会会場「みのり」:

北九州市小倉区京町3丁目10-7

TEL:093-541-6788

JR小倉駅下車 小倉駅南口より徒歩2分

※関門小松会のお世話

3. 進水式について

令和4年10月13日(木)

・08:45 下関駅南口集合 バスで造船所まで送迎(下記図)

・10:00～下関三菱造船所にて 同窓会理事進水式参加(学校招待者+理事会出席者30名)

・進水式終了後、祝賀会参加者は門司港ホテ

ルまでバスで送迎



4. 祝賀会について

・学校主催、同窓会共催

・プレミアムホテル門司港 4F 立食・会費制 @10,000円 13:00～15:00 予定

<https://premierhotel-roup.com/mojikohotel/>

・終了後、新幹線・小倉までバスにて送迎

・学校招待者予定 学校内部：奨学後援会 高専機構：谷口理事長、大内事務局長、4商船高専校長

外部：藤本周防大島町長、椎木前町長、

柳居県議会議長、赤池参議院議員、

他は村岡山口県知事、井原柳井市長、

酒迎全船協会長など予定。

岸防衛大臣、林外務大臣については柳居議長に相談。

5. 経費についての同窓会からの補助および追記

① 各地区小松会主要駅～下関往復 JR 新幹線運賃：各地区2名まで

② 10/12 夕食会 @2,000を超える代金

③ 10/12 宿泊費 @10,000円

④ 10/13 祝賀会費 @5,000円

⑤ 10/12の宿泊に関しては、参加者各自ホテルの予約をお願いいたします。

⑥ 参加者2名のご芳名、同窓会役職、活動報告(A41枚程度)について、8月12日(金)までに下記事務局までご回答、ご返信いただきますようお願い申し上げます。

回答先：dousou@oshima-k.ac.jp もしくは

は iwasaki@ashima-k.ac.jp

(文責：岩崎寛希)

弓削商船高等専門学校

○令和3年度電子機械工学科・情報工学科卒業式及び専攻科(生産システム工学専攻)修了式を挙

令和4年3月12日(土)、令和3年度弓削商船高等専門学校電子機械工学科・情報工学科卒業式及び専攻科(生産システム工学専攻)修了式を挙

行し、電子機械工学科卒業生46名、情報工学科卒業生42名及び専攻科(生産システム工学専攻)修了生8名に卒業証書・修了証書が授与されました。

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のため、卒業生、修了生、保護者及び教職員のみでの出席とし、今回は学生全員の陰性証明及び保護者独自での陰性確認を行い、座席の間隔を空けるなど、新型コロナウイルス感染予防対策をとった上で式典を挙

行了。石田校長から「皆さんの成長を見守り、支えてくださった保護者、後援会や同窓会、企業や地域の方々への感謝を忘れないでください。そして未来を見据え、自分の進むべき道を見失うことなく、今を大切に生きて、地球に優しい技術者になってください」と式辞が述べられました。

続いて、在校生総代の商船学科3年・川東大助さんが送辞を述べた後、卒業生総代の電子機械工学科・藤原いぶきさんからは、「豪雨災害やコロナ禍での制約がある中でも仲間と協力し、成長し、楽しく過ごせたことは私達だからこそこの経験、これからもたくさんの困難に出会うこともあるでしょうが、学校生活で得た経験をもとに前向きに乗り越えていきます」と答辞が述べられました。

卒業生・修了生たちは弓削商船高等専門学校での思い出を胸に、それぞれの夢を叶えるための第一歩を力強く踏み出しました。



○令和4年度入学式を挙

行し、令和4年4月6日(水)に令和4年度入学式を挙

行し、今年度は本科生128名、留学生1名、専攻科生13名の計142名の学生が入学しました。

今年度も昨年度同様に入学生、在校生総代、保護者及び教職員のみでの出席とし、座席の間隔を空けるなど、新型コロナウイルス感染予防対策をとった上で式典を挙

行了。式ではまず、入学許可が行われ、本科入学生及び専攻科入学生による入学宣誓がありました。その後、石田校長から「日々の学校生活においては、寮生活もさることながら、課外活動が人間力形成にとって非常に有用です。そのためにも、クラブ活動や各種行事に積極的に参加し、大いに楽しみながら、学科や学年にとらわれずに多くの友人を作ってください。高専時代にできた友人は、一生の宝物となるはず。そして充実した高専生活を送ってください」と式辞がありました。

続いて、在校生を代表して、商船学科4年の川東大助さんが「誰よりも多く努力をし、その夢を叶えてやるという強い意志を持っていな

ければ夢は自分の元にやっこないと思いません。皆さんも、本校で自分の夢を見つけ、それに向かって進んでください」と歓迎の言葉を述べた後、入学生を代表して商船学科の庄司宗太郎さんが「私たちはこれからの5年間で新しい仲間とともに、専門的な知識や技術を身につけて、将来多くの人の生活に役立てる人材になりたいと思っています」と希望に満ちた答辞を述べました。

式に出席した保護者に見守られながら、入学生の弓削商船高専での新たな生活が始まりました。



○ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジとのオンライン国際交流プログラム

令和4年2月26日～3月12日までの3週間にわたって、商船系高専とハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ(KCC)との国際交流プログラムがオンラインで実施されました。

本プログラムは、商船系高専とKCCとの間で毎年行われている国際交流プログラムであり、今年で13回目を迎えます。

今回、本校から商船学科の4名の学生(3年生1名、1年生3名)が参加し、他4商船系高専の18名の学生とKCC学生および各校教員も含めた39名で実施しました。

本プログラムは、オンタイムでの3回の講義(2月26日・3月5日・3月12日の各2時間)、毎週ビデオ視聴による課題とオンライン

掲示板 Padlet を使用した自己紹介や地元自慢などがあり、SNSを通じて行われました。

オンタイムでの講義は、KCCの先生によって和気あいあいとした雰囲気が進められ、参加学生たちは慣れない英会話に苦戦しながらも、異文化コミュニケーションやハワイの伝統航海術などについて楽しく学んでいました。

最終日には日本人学生たちからサプライズとして、感謝のメッセージボードをKCCのみなさんに送りました。

来年度以降、新型コロナウイルス感染症が収束に向うと考え、現地でプログラムを再開する予定です。



○令和4年度 新入生対象メンタルヘルス研修を実施

令和4年4月、本校カウンセラーの林祐太郎先生、石丸雅貴先生を講師として、新入生対象メンタルヘルス研修を実施し、新1年生126名が参加しました。

本研修は、対人関係の重要性、アサーティブ・コミュニケーション、ストレスマネジメントについて学ぶことを目的として実施しました。

研修を通して、「新型コロナの関係で中学校での人との関わりが少なかったため、今回の研修を受けて学び直すことができよかった。」

「5年半の生活の中で困りごとが出てくると思うので、困ったらまず相談します。」「みんなまだ来たばかりで、人間関係に不安がある中でこの話を聞いて良かった。」「人にお願ひするとき、謝るときなど様々なコツがあると分かつ

た。」「基本パターンを覚えて、クッション言葉などを普段の会話に取り入れて会話してみようと思った。」などの感想が聞かれました。

第1回 演題「困ったときの対処法と人間関係づくりのヒント」

第2回 演題「言いたいことをうまく伝える方法 ～アサーション～」

第3回 演題「ストレスマネジメント」



○全教職員対象 学生支援研修を実施

令和4年5月16日（月）に全教職員を対象とした「学生支援研修」を実施しました。

本研修は、「学生支援の現状と課題を共有し、諸問題に対応する際のポイントを理解する。」「学生との面談における基本的事項を習得する。」ことを目的として行われました。



学生主事からは、高専での事件・事故の概要と特徴、事件事故対応のポイント、連携・協働による学生支援の重要性について、本校カウンセラーからは、学生との面談についてグループワークも交えて説明が行われました。校長からは、学生理解に努めて学生に寄り添った対応をするようにとの講話がありました。

各教職員が諸問題に対応する際のポイントを理解し、学生との面談における基本的事項を習得する有意義な機会となりました。



○商船学科救命講習等を実施

令和4年6月13日（月）、商船学科3年生40名が救命講習等を実施しました。

この救命講習は、船舶遭難時等において利用する基本的救難・救命設備の一つである信号紅炎の取扱い及び救命索発射器の概要・操作・取扱いを学ぶとともに、併せてサバイバルに対する心構えを涵養することを目的として実施しています。また、この救命講習は、STCW条約に規定され、船舶職員及び小型船舶操縦者法に基づく、海技資格取得のために必要な正式な課程の一部であり、必ず受講する必要があります。

救命索発射実習では、威力・音の大きさに驚きつつ、先生の指導に熱心に耳を傾け受講しました。



(練習船弓削丸 森瑛太郎 記)

弓削商船高専同窓会

■ 第39回横浜港カッターレースで弓削商船OBチーム総合第5位

第39回横浜カッターレースが、5月22日に3年ぶりに開催され、弓削商船OBのかみじまチームが出場し、見事総合第5位に入りました。

当日は天候に恵まれて晴天下でのレース開催となりました。コロナ禍になる3年前の大会までは一般レース161チーム、シニアレース14チーム、小学生レース8チーム、女子レース20チームと多くのレースを開催していましたが、前回大会は一般レースで3チーム、シニアレースで1チーム出場、今回は一般レース62チーム、女子レース3チームのみの縮小開催となりました。その中で、弓削商船OBかみじまチームは18レース、タイム2分44秒、総合5位の結果を収めました。上位4チームまでは決勝レースに進め、残念ながら5位で今回は決勝に進めませんでしたが、過去最高の順位となりました。



■ 同窓会事務局を担当してきた益崎理事へ感謝状と記念品の贈呈

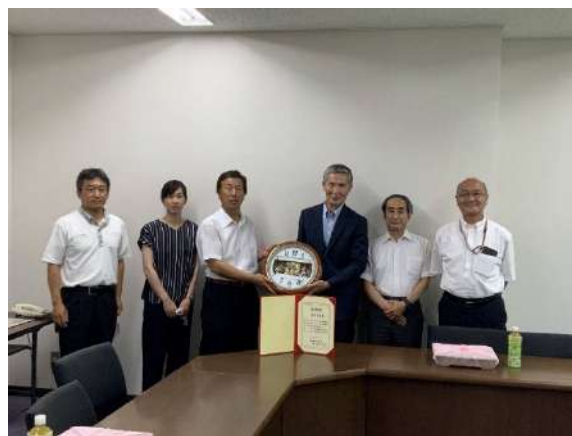
弓削商船高専創基120周年を節目に同窓会事務局を交代いたしました。

6月27日、これまで担当された益崎理事に、柏木会長から感謝状と記念品が授与されました。

益崎理事は、20年に渡り同窓会事務局を努め、当時は年2回「しらすな」の発行、同窓会費の管理、同窓生の窓口など皆様のお世話役を努めていただきました。

感謝状と記念品の贈呈後、柏木会長、石田校長、原田弓削支部長、黒瀬事務担当、そして事務局を引き継いだ田房とで昼食会を行い、昔の苦労話に花が咲きました。

同窓会事務局としてはわからないこともあり、益崎理事に手助けいただくことも多々あるかと思いますが、20年間の事務局の運営に労いの言葉と感謝を申し上げます。



■ 同窓会事務局

電話(学校代表) 0897-77-4606
FAX 0897-77-4692
メール info@yuge-kosen.com
同窓会事務担当 田房 友典(12期)

海技教育機構

○ 乗船実習

高等専門学校6年生（第51期生）が令和4年4月から「銀河丸」と「青雲丸」に分かれて乗船訓練を行いました。

長引く新型コロナウイルスの影響を受けて、各練習船においても新型コロナウイルス感染者が確認されました。実習の一時中断を余儀なくされる厳しい状況が続いておりますが、機構内で定めるガイドラインに基づき、また、各自治体とも協力して、感染防止策を講じながら、訓練を遂行しております。



(銀河丸)主機ピストン抜き実習(6月6~9日)



(青雲丸)乗船式の様子(7月1日)

計画通りの業務遂行が困難な環境下ではございますが、確実に実績を積み上げて行くことが肝要と考えております。これからもご支援のほどよろしくお願いいたします。

今年度においても、感染症対策を徹底しながら訓練を行っております。

高等専門学校6年生は、6月後半の短い休学期間を経て、7月1日から最後の乗船実習として「青雲丸」、「銀河丸」に分かれて乗船をいたしました。(航海科94名、機関科86名)。

遠洋航海(昨年同様外地には寄港しない)を含む3か月の乗船実習を行ってまいります。

○ 令和4年7月から9月までの乗船実習の予定は次のとおりです

○ 日本丸

- ・海上技術短期大学校(小樽)
7/1 乗船、7/7 入渠地発、7/11~15 大阪、
7/21~25 高松、7/29~8/3 東京、8/9~13 横浜、
8/20~24 神戸、8/29~9/3 東京、9/9 神戸入港、9/10 下船
- ・東京海洋大学1年(A組)
8/1 乗船(東京)、8/31 下船(東京)
- ・東京海洋大学1年(B組)
9/1 乗船(東京)、9/9~14 神戸、9/20~24 名古屋、9/28 東京入港、9/30 下船

○ 海王丸

- ・海上技術学校乗船実習科
7/1 乗船、7/4 神戸発、7/15~19 室蘭、
7/26~30 函館、8/5~9 伏木富山、8/19~23 別府、8/30~9/3 神戸、9/9 東京入港、
9/10 下船

○ 大成丸

- ・海上技術学校乗船実習科
7/1 乗船、7/2 神戸発、7/9~11 神戸、
7/19~22 東京、7/25~29 神戸、
8/8~12 徳山下松、8/16~20 広島、
8/27~31 別府、9/7 神戸着、9/10 下船

○ 銀河丸

- ・大学（航海科、機関科）5年
- ・高等専門学校（航海科、機関科）6年
（航海科：大島 22 名、機関科：富山 22 名、鳥羽 20 名、大島 15 名、広島 20 名、弓削 9 名）7/1 乗船、7/4 東京発、7/11~15 函館、7/22~26 室蘭、8/6~10 神戸、8/22~27 神戸、9/1~5 神戸、9/6 入渠地着、9/10 下船

○ 青雲丸

- ・大学（航海科）5年
- ・高等専門学校（航海科）6年
（航海科：富山 18 名、鳥羽 18 名、広島 21 名、弓削 17 名）
- ・海技大学校専攻（機関科）2年
- ・海技大学校専修（航海科、機関科）2年
7/1 乗船、7/4 神戸発、7/12~16 東京、7/22~26 函館、8/2~6 室蘭、8/15~19 小樽、9/1~5 名古屋、9/9 東京着、9/10 下船

○ 海事広報活動

例年実施しております各寄港地における一般公開や海洋教室、シップスクールなどのイベントにつきましては、新型コロナウイルス感染状況等を考慮しながら実施を検討してまいります。

WEB を活用して実施できる広報活動について、現在は、ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、YouTube などでの広報を積極的に実施するとともに、積極的に情報発信を行っております。是非ご覧ください。

○ ご支援のお願い

ご承知のとおり、独立行政法人海技教育機構は、船員養成のため全国 8 校の学校での学科教育と練習船 5 隻による航海訓練を通じた一貫教育の実施に加え、商船系大学や高等専門学校などの船員教育機関の学生に対する航海訓練を通じ、海運業界のニーズに応じた新人船員を養成するとともに、水先人の養成や船員の実務教育を通じた優秀な海技者の養成を行う我が国最大の船員

教育機関として平成 28 年に発足しました。

一方で海技教育機構は、非常に厳しい財政事情の中で経営基盤の安定を図り、船員教育訓練をより充実させ、日本を支える優秀な船員の育成に努めるため、令和 2 年度より寄附金制度及び賛助会員制度の本格運用を開始しました。

日本の船員教育のため、皆様のご支援が必要です。当機構の教育・航海訓練・研究業務・海事広報等の活動へのご理解とご賛同をいただき、船員教育機関として、より社会に貢献するためにも、皆様の暖かいご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

○ 寄附金制度

海技教育機構では以下の 3 タイプの寄附金制度があります。寄附者は個人、法人を問いません。

- (1) 使途特定寄附金等
- (2) 募集特定型寄附金
- (3) 一般寄附金等

○ 税制上の優遇措置について

海技教育機構は、所得税法施行令第 217 条第 1 項第 1 号及び法人税法施行令第 77 条第 1 項に掲げる「特定公益増進法人」ですので、ご寄附にあたりましては、税法上の優遇措置を受けることができます。

寄附金制度及び賛助会員制度の詳細につきましては、当機構のホームページにてご説明をさせていただきます。

海技教育機構 HP : <http://www.jmets.ac.jp>



企画調整部企画課 間島 良博

本部・支部だより

- 2022/3/14 2021 年度第三回理事会（みなし理事会）を開催
- 2022/4/18 参議院議員中西祐介先生セミナー参加、挨拶（酒迎）
- 2022/4/19 2022 年度 4 月執行役員会本部にて開催（酒迎、望月 web、飯島、加藤（オブザーバー）
- 2022/4/23 2022 年度第 1 回理事会を千代田区民館にて開催。（酒迎会長、望月副会長、飯島専務理事、小木曾理事、田島理事、長谷川理事、広重理事、松見理事、加藤監事）
- 2022/5/1 「清和政策研究会との懇親の集い」参加（酒迎）
- 2022/5/18 みずほ証券 来会
- 2022/5/18 5 月執行役員会開催（酒迎、望月 web、飯島）
- 2022/5/25 鳥羽商船高専（和泉 充校長、窪田祥朗商船学科長、齋心俊憲鳥羽丸船長、菅沼延之同窓会長）来会
- 2022/5/27（公財）海技教育財団第 31 回理事会（酒迎）
- 2022/6/6（公財）日本殉職船員顕彰会第 41 回通常理事会（海運ビル）監事として参加（飯島）
- 2022/6/6 「衆議院議員衛藤征士郎先生を囲む会」参加（酒迎）
- 2022/6/7 参議院議員赤池誠章先生面談（酒迎）
- 2022/6/7 文部科学省高等教育局専門教育課面談（酒迎）
- 2022/6/8 富山高専 山本桂一郎副校長、伊井聡恵総務課課長補佐、柴田紘子総務課係長来会
「次世代の海洋人材の育成」今年度事業計画の説明（飯島）
- 2022/6/9（公財）海技教育財団第 20 回奨学生選考委員会（海運ビル）参加（飯島）
- 2022/6/11 2022 年度通常総会・第 1 回臨時理事会開催（14 時～15 時 30 分 場所：日本教育会館）
- 2022/6/13 文部科学省・国土交通省海事局新執行役員挨拶
- 2022/6/21 海事センタービル内挨拶
（公社）日本海難防止協会臨時理事会（広重）
（公財）日本殉職船員顕彰会評議員会（海運ビル）監事として参加（飯島）
- 2022/6/29（公財）海技教育財団臨時理事会（広重）
- 2022/7/21 Early Bird Seminar 出席（広重）
みずほ証券来会（広重）
- 2022/7/22 文科省高等教育局専門教育課長 塩田剛志、課長補佐 奥井雅博挨拶（広重、加藤、飯島）
参議院議員赤池誠章、参議院議員中西裕介（喜多村秘書）、衆議院議員衛藤征士郎（衛藤秘書）
国交省海事局海技課長中井智洋挨拶（広重、望月、酒迎、加藤、飯島）

○ 賛助会員の方々に当協会を支援していただいております！

一般社団法人 全日本船舶職員協会

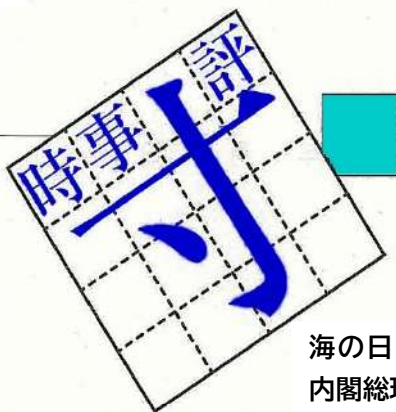
賛助会員名簿 2022年6月現在

広島商船校友会	宮城マリンサービス株式会社
弓削商船高専同窓会	株式会社ハマテクノサービス
北斗会事務局	有限会社システムエンジニアリング
大島商船高専同窓会	日本ガスライン株式会社
鳥羽商船同窓会	名阪船舶株式会社
株式会社コトラシステム	戸田汽船株式会社
北星海運株式会社	株式会社商船三井内航
山友汽船株式会社	菅原汽船株式会社
株式会社B&Sエンタープライズ	神戸マリーン工業株式会社
株式会社SEALS	株式会社マリントランスシステム
栗林商船株式会社	正栄汽船株式会社
名古屋メッキ工業株式会社	かもめプロペラ株式会社
八馬汽船株式会社	東興海運株式会社
大四マリン株式会社	鹿児島船舶株式会社
NSユナイテッド内航海運株式会社	摂予汽船株式会社
太洋産業貿易株式会社	日本船舶表示株式会社
旭運輸株式会社	ダイハツディーゼル株式会社
上野トランステック株式会社	三陸運輸株式会社
株式会社 ウシオ	兵機海運株式会社
日本栄船株式会社	協同商船株式会社

会費納入者及び2022年度新入学者入会（準会員）芳名帳

2022年8月1日現在

会費納入者芳名一覧			商船系5高専新入学者入会者（準会員）芳名一覧			
2021年度分	工藤 善己	酒井 勇樹	富山高専	小林 巧青	越田 響稀	高嶋 仁誠
早崎 弘泰	光田 公德	濱松 直也	奥 小真智	福田 一太	玉置 花愛	上田 周
鬼塚夕季愛	吉村 耀	佐々木 翔輝	松田 大和	加藤 駿利	瓜生 健心	亀田 鉄翔
高村 颯介	7月	漁野 智洋	般若 英汰	山柝 貴祐	浅賀 優大	川崎 彪雅
2022年度分	商船三井	廣村 匡俊	西崎 歌純	脇田 晴貴	生駒 卓也	水野 さくら
6月	藤川 政良	瀧田 祐司	木下 瑚々海	渡會 青波	勝連 蒼	松村 龍昇
出光タンカー	山口 智彦	松下 薫	石田 珠月	近藤 智也	佐藤 飛翔	鈴木 禪士
高野 清文	田村 孝夫	河本 優	守田 恭胡	松野 央典	テンドウ ショウタ	久島 空地
野間 虎三	和田 雅人	中尾 拓弥	鶴野 倅輔	三林 奈央	市村 遼太郎	小野田 颯天
瀬戸口義典	藤井 仁	阿部 誠	舟瀬 篤希	高山 歩夢	浜崎 蔵人	木村 宥斗
有馬 功人	枝次 真治	梅田 尚宏	山 朔太郎	浅井 大輝	野村 直也	田代 愛理
中坂 勝史	中塚 達也	染矢 真行	萩原 大翔	成瀬 瑛	大島商船高専	光田 太一郎
山本 一成	朝日 健二	田川 寛大	荒井 まりの	今井 加恋	石井 翔太	神谷 翔太
共栄タンカー	綱島 毅	渡邊 真史	齊藤 美海	佐々木 聖	川口 綾太	中澤 勇海
佐藤 好司	滝浦 文隆	早柏 隆太	花井 康太郎	野中 亜耶	藤本 翔太	旗手 涼太
外谷 正彦	竹原 敏宏	溝淵真太郎	松尾 夏朋	永峰 遼次郎	小田 連太郎	高橋 伶
石田健一郎	栗原 誠	杉野 智	居川 知世	平野 文椰	大峯 心	原田 鉄馬
浦田 建	橋口 靖生	越田 亘	鈴村 蒼一郎	山本 松鯉	佐々木 琥太郎	花田 七海理
中野 寛士	萩原 栄二	小林 瑞樹	高野 紗来	林 真帆	中野 蒼大	瀧本 恭平
山友汽船	新田 真一	宇都宮 直人	後藤 野乃	田中 凱也	佐々木 波瑠	麓 悠雅
望月 正信	山本 真丈	田辺 光	谷内 雄山	荒木 真之	当銘 由之祐	海老原 聡太郎
松林 祐馬	鈴木 直也	商船三井フェリー	内山 杏	安藤 滝琉	村上 一心	大町 聡悟
北島 章市	寺西 尚平	富山 幸弥	中山 諒子	広島商船高専	柏原 伊吹	西部 翔太郎
川淵 仁	迫間 利紀人	薄井 雄基	山崎 陽日輝	明石 智弥	田中 拓哉	庄司 宗太郎
菊地 栄輝	山下 育孝	廣瀬 潤一	酒井 嶺弥	田中 祐熙	得能 優輔	田宮 沙弥
長嶋 大介	沖原 邦彦	清水 洋平	村上 富美	濱本 智也	加来 直央弥	稲見 斗汰
大坪 鴻介	片淵 敏之	前田 龍弥	渡辺 康明	宮本 圭史郎	知久 悠太	吉井 優羽
仁井岡友康	山岡 宣之	個人入金	新谷 千晶	石坂 慶太	武本 アシュトン海人	篠藤 来斗
高田 忍	宇佐見航一	本村 謙	永言 朔汰朗	中野 太一	新庄 煌	阿久津 滉祐
逢坂 武	木元 孝憲		高倉 一葉	門川 柚乃	友澤 梧羽	野上 粹世
吉川 温己	徳山 公彦		山川 敦也	田原 育美	木谷 友哉	渡部 心誠
山崎 真也	福井 悟	新入会会員	泉 玲衣	穂積 賢太郎	松本 航太郎	吉永 悠起
豊島 翔馬	伊賀 勇治	本村 謙	寺本 圭汰	神尾 倅希	佐伯 柚花	川相 洸一郎
永井 達朗	児玉 賢志		鳥羽商船高専	中谷 財	村川 弘夢	村田 優
梶原 拓海	間島 崇夫		土井 寿真	平本 聖曜	弓削商船高専	校名不明者
村上 航	金子 大輔		山本 大河	木山 遙	釜山 宗次	新田 ころろ
近藤 拓斗	大宅 理志		加藤 聡修	川野 颯真	佐藤 晴	野上 雅史
今城 冬哉	上井 博明		青木 空	林 寛翔	真田 初葵	高山 歩夢
川上 海斗	百合野 剛		茂森 湖春	亀井 悠司	古城 快晟	
磯野 達也	平木 恵介		伊藤 健心	亀井 陵平	伊達 真人	



海の日を迎えるにあたっての 内閣総理大臣メッセージ

四方を海で囲まれ、世界有数の広大な管轄海域を有する我が国は、古来より海から多大な恩恵を受けて発展してきました。

将来にわたって、広く自由な海の豊かさや繁栄を享受する海洋国家であるために、私たちは、この海を守り、科学技術・イノベーションも生かしながら、更なる発展に向けて取り組んでいくことが不可欠です。

海の平和と安全を守り抜くため、不審船対応訓練の継続的な実施などの海上法執行能力の向上や沿岸部レーダーの着実な増強などの海洋状況把握の能力強化などに取り組んでいきます。

また、我が国周辺海域には鉱物資源が豊富にあります。経済安全保障の観点からも、資源量の把握や生産技術の開発・実証などを進め、国産海洋資源の確保に取り組んでいきます。

地球温暖化への対応として、日本は、2050年のカーボンニュートラルの実現を目指しています。実現に向けては、再生可能エネルギーを最大限導入することが必要であり、洋上風力発電はその切り札です。再エネ海域利用法を活用し、長期的・安定的かつコストが安く、また地域の発展にも資するような洋上風力発電の導入を加速していきます。また、世界に通用する最先端の浮体式洋上発電技術の開発にも取り組みます。

最後に、海のもたらす恩恵に改めて感謝するとともに、海洋国家・日本、そして、世界のますますの平和と繁栄を願い、本年の「海の日」のメッセージとしたいと思います。

ありがとうございました。

表紙写真 瀬野汽船株式会社 新造RORO船「しゅり」

本船の要目は、搭載能力:13m トレーラー161台(もしくは13m トレーラー111台+コンテナ121TEU)
総トン数:15,816トン 主なサイズ:全長180.3m、型幅27.0m、満載喫水7.20m
航海速力:約21.1ノット 減揺装置:フィンスタビライザー ランプウェイ:船首7.0m×30.0m、75トン
船尾7.0m×38.0m、75.0トン その他設備:陸側でも主機の運転状況確認ができ、安全運航に役立つシステム「SIMS3」を搭載 建造造船所:日本シップヤード株式会社

編集後記

新型コロナウイルス感染症は「第7波」が押し寄せている。政府は「第7波」収束後、新型コロナウイルスの感染症法上の「2類相当」扱いの見直しを検討するようだ。「2類相当」の対応は、すべての感染者を確認する「全数把握」が必要で、外来での診察は発熱外来に限られている。そのため、感染拡大のたびに保健所と発熱外来の窓口が大混乱している。濃厚接触者の特定と待機要請も行われ、企業だけでなく医療現場や介護施設、公共機関の職員欠勤が相次ぎ、社会経済活動にも支障がでてきている。

一部の専門家や経済界からは、新型コロナウイルス感染症の位置づけを季節性インフルエンザと同じ5類相当に下げろとの声が出ていた。季節性インフルエンザと同じなら、全数把握は不要で一般の医療機関での診療も可能である。政府も単純に5類にするのではなく、社会経済活動の正常化に必要な範囲で緩和可能な項目を見極める考えのようだ。(飯島 記)

全船協会報 150号 夏季号

2022年8月発行

◇発行所:一般社団法人 全日本船舶職員協会

◇編集兼発行人:加藤 信一

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町三丁目7番12号 清話会ビル2階B室

TEL 03-3230-2651

FAX 03-3230-2653

E-mail:honbu@zensenkyo.com

URL:https://www.zensenkyo.com



Tokyo Bay Licensed Pilots' Association

東京湾水先区水先人会

会長 足立和也

〒231-0023 横浜市中区山下町1番2 パイロットビル (代表) TEL (045) 650-3180 FAX(045) 663-4811
(オペレーション部) TEL (045) 681-4081 FAX(045) 681-4090
URL:http://www.tokyobay-pilot.jp TEL (045) 681-4091



内海水先区水先人会

Licensed Inlandsea Pilots' Association

会長 高濱洋嘉

〒650-0042
神戸市中央区波止場町5番4号中突堤中央ビル4階
電話 (078)332-7191 FAX (078)391-7157
E-MAIL info@inlandsea-pilots.jp

清水水先区水先人会

会長 日比野 雅彦

副会長 鈴木 泰治

〒424-0922 静岡市清水区日の出町10番80号
清水マリンターミナル3F
電話 (054) 352-2191
FAX (054) 351-0527



伊勢三河湾水先区水先人会

ISE-MIKAWA WAN PILOTS' ASSOCIATION

会長 小鹿 邦博

〒455-0032 名古屋市港区入船二丁目4番6号
名港ビルディング 17階
電話 : (052)304-8311 FAX : (052)304-8312

関門水先区水先人会

会長 長野 茂夫

〒801-0841 北九州市門司区西海岸1丁目2番13号
電話 (093) 332-2384(代)

株式会社 コトラシステム

代表取締役 望月 正信

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-12-13
日本橋鮎佐ビル3階

電話 (03) 3245-6975
FAX (03) 3245-6980
E-mail:cotrasystem@nifty.com

船舶、船舶装備器具及び部品の販売、輸出。作業船の
賃貸船舶修理、検査工事の請負及びコンサルタント。

K2 シップマネジメント株式会社

〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-13-14
パークノヴァ横浜・老番館306

電話 : 045-290-6082 FAX : 045-290-6916
E-mail : kani@ksh.biglobe.ne.jp



名阪船舶株式会社

代表取締役 高橋 宏之

〒552-0022 大阪市港区海岸通3丁目2番2号

TEL 06-6572-6221 FAX 06-6574-0635

http://www.meihansenpaku.co.jp



Marine Trans System Co., Ltd.

株式会社マリントランスシステム

代表取締役社長 小林 悠

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号

セントラルビル2階 (fabbit内)

電話 050-3187-3610(代) FAX 03-6629-6290

海事六法 2022年版

2022年1月末日現在の海事関係法令および条約196件を、海運／船舶／安全／船員／職員・審判／海上交通／海洋汚染／保安・その他／条約の9項目に分類して掲載。「海技試験」に必要な法令をすべて収録するとともに、実務にも役立つように配慮。口述試験場への持ち込みが認められている。

国土交通省海事局 監修 A5判 2162頁 定価5,280円(税込)



水産資源学

水産資源を適切に利用するための科学的理論である水産資源学を中心に、その背景、歴史、資源評価結果を用いた漁業管理を含めて論じる。北海道大学水産学部での授業をもとに、水産資源学の全体を俯瞰するために必ず知っておくべき事項に絞りつつ、現場で資源管理・漁業管理を担当する実務者のために具体的な適用例も解説。

松石 隆 著 A5判上製 168頁 定価2,420円(税込)

〒112-0005 東京都文京区水道 2-5-4
TEL 03-3815-3291 FAX 03-3815-3953

海文堂出版

<http://www.kaibundo.jp/>
e-mail: hanbai@kaibundo.jp

会報「全船協」への投稿記事を募集中

全船協の広報委員会では会報「全船協」の内容の充実を図るべく日々努力しております。会員・非会員を問わず多くの皆様から幅広く「投稿記事」を募集いたします。内容は乗船中、陸勤中、COVID-19による乗船下船エピソード、海事関連企業に勤務されている勤務内容の紹介や体験談、趣味、地域活動、ふるさと自慢など、何でも結構です。原稿締め切り日をとくに設けておりませんので、原稿を事務局までお送りください。原稿は横書き、ワードなどで作成、メールに添付して送ってくださっても結構です。

詳細問い合わせ先: 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町三丁目 7-12

清話会ビル2階B室

(一社)全日本船舶職員協会 事務局 飯島 寿

TEL:03-3230-2651 FAX:03-3230-2653

E-mail: honbu@zensenkyo.com